

シタル者ニシテ再ヒ會計師タラムトスル者

二 外國會計師證書ヲ有スル者但シ該國ノ試験及ヒ審査ノ程度カ本章程ノ規定ト同等ナルコトヲ證明シ得ルコトヲ要ス

三 會計師證書ヲ有スル者ニシテ國民政府財政部ノ再審査ニ合格シ又ハ會計師證書ヲ登録シ並ニ工商部ニ再審査ヲ申請シタル者

四 左記ノ各條件ニ該當スル者

甲 國立又ハ教育部ノ認可シタル公私立大學又ハ專門學校ニ在リテ會計學ノ必修科程ヲ教授シ二年以上繼續シタル者

乙 國立又ハ教育部ノ認可シタル中學以上ノ學校ヲ卒業シ並ニ工商部ノ合格ト認めタル企業機關、官公署又ハ公務機關ニ在リテ會計ノ主要職員タルコト五年以上ニシテ成績優良ノ證明書ヲ有スル者

第九條 左ニ掲クル各項ノ一ニ該當スル者ハ會計師ト爲ルコトヲ得ス

一 禁治産ノ宣告ヲ受ケタル者

二 公私財産ニ損害ヲ與ヘテ免職又ハ除名處分ヲ受ケタル者

三 破産ノ宣告ヲ受ケテ復權セサル者

四 公權剝奪ノ處分ヲ受ケタル者但シ國事犯人ニシテ既ニ復權シタル者ハ此限ニアラス

五 刑法上ノ徒刑ヲ受ケタル者但シ國事犯人ニシテ既ニ復權シタル者ハ此限ニ在ラス

六 反革命行爲アリテ判決ヲ受ケタル者

七 阿片ヲ吸食スル者

八 本章程ニ依リ除名處分ヲ受ケタル者

九 六十歳以上ノ者

十 外國ノ國籍ニ入りタルコトアル者

第十條 本章程ニ依リ會計師試験又ハ審査ヲ受ケムトシテ申請ヲ爲ス者ハ申請書ヲ認め第七條、第八條ノ資格ヲ證明スル各種ノ文件ヲ添附シテ工商部ニ差出スヘシ申請書々式ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 會計師試験審査及ヒ再審査ノ規則ハ別ニ之ヲ定ム

### 第三章 證 書

第十二條 會計師試験合格者又ハ試験免除審査合格者ニハ工商部ヨリ證書ヲ發給ス

第十三條 證書ノ發給ヲ申請スル者ハ申請書ヲ認め證書費百元ヲ添附納入シテ工商部ニ申請スヘシ

第十四條 本章程ニ依ラスシテ證書ヲ領有スル者ハ會計師ト爲ルコトヲ得ス並ニ會計師ノ名義又ハ其ノ他ノ言語、文字、符號等ヲ用キ其ノ會計師タルコトヲ表示スルコトヲ得ス

第十五條 本章程ニ依リ免許セラレタル會計師ハ工商部ニ申請シテ會計師總名簿ニ登録シ並ニ工商公報ニ登載シテ



之ヲ公布シタル後ニアラサレハ職務ノ行使ヲ開始スルコトヲ得ス  
申請書用紙ハ工商部之ヲ制定シテ發給使用セシム  
會計師ノ職務行使ハ一省ヲ以テ一區域トス（内ニ特別市ヲ包括ス）

第四章 名簿

第十六條 會計師カ職務行使區域及ヒ事務所々在在地ヲ變更シ又ハ會計師助理員ヲ任用シ又ハ解職シタル時ハ工商部  
ニ届出テ工商部ハ之ヲ會計師總名簿ニ登錄シ並ニ工商公報ニ登載ス

第十七條 會計師總名簿ニハ左ニ掲タル各項ヲ記載スヘシ

- 一 姓名、年齢、原籍、住所
- 二 會計師證書番號
- 三 職務行使區域及ヒ事務所々在在地
- 四 會計師助理員ノ人數、姓名、略歴
- 五 免許年月日
- 六 登錄年月日
- 七 職務開始年月日
- 八 加入セル公會

九 登錄事項ノ變更

十 職務行使停止ノ原因及ヒ年限

十一 懲戒ヲ受ケタルコトノ有無

第五章 權利義務

第十八條 會計師カ職務ヲ執行スル時ハ官吏又ハ其ノ他俸給ヲ受クル公職ヲ兼任スルコトヲ得ス但シ名譽職ニ任シ  
又ハ官廳ノ特令スル臨時職務ヲ執行シ又ハ學校ノ兼任教員タルコトハ此限ニアラス

第十九條 會計師カ職務ヲ執行スルトキハ商業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ職務ニ障礙ナク並ニ工商部ノ許可ヲ得タ  
ルトキハ此限ニ在ラス

第二十條 會計師ハ自己又ハ其ノ親屬ト利害關係アル事項ニ關シテ業務ヲ執行スルコトヲ得ス

第二十一條 會計師カ委託ヲ受ケテ職務ヲ辦理スルトキハ委託人ニ向ヒ相當ノ報酬及ヒ費用ヲ受クルコトヲ約束ス  
ルコトヲ得但シ約束シタル報酬及ヒ實際費用ノ外額外ノ要求ヲ爲シ又ハ委託人ト成功後別ニ報酬ヲ受クルコトヲ  
約束スルコトヲ得ス

第二十二條 會計師ハ正當ノ理由アルニアラサレハ委託ヲ謝絶スルコトヲ得ス

第二十三條 會計師ハ職務ヲ行フトキ左ニ掲タル行爲ヲナスヲ得ス

- 一 會計師ニ非サル者ト共同ニ職務ヲ執行シ又ハ會計師ニ非サル者ヲシテ會計師ノ名義ヲ用キテ職務ヲ執行セシ



- ムルコト、但シ助理員ヲシテ各個ノ事務ヲ代理セシムル場合ハ此限ニ在ラス
- 二 債權者ノ債務取立ニ專任スル委託ヲ受クルコト
  - 三 職務ニヨリ管理スル動産又ハ不動産ヲ買収スルコト
  - 四 職務處理ニヨリ得タル秘密ヲ宣布スルコト、但シ委託者ノ承諾ヲ得タル場合ハ此限ニアラス
  - 五 委託ヲ受ケタル事件ニ對シ不正ノ行爲ヲナシ及ヒ職務上盡スヘキ義務ニ違反シ又ハ之ヲ怠ルコト
  - 六 會計師ノ職務以外ノ保證人ト爲ルコト
  - 七 會計師カ職務ノ爲法院ニ出庭スルトキ辯護士ノ事務ニ涉及スルコト

第六章 公會

第二十四條 會計師ハ二十人以上ノ集合ヲ以テ省政府又ハ特別市々政府ノ所在地ニ於テ會計師公會ヲ設立スルコトヲ得會計師ハ公會ニ加入シタル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得ス

第二十五條 會計師公會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 執行委員五人乃至十一人
- 二 監察委員二人乃至五人

第二十六條 會計師公會ノ事務ハ執行委員中ヨリ常務委員若干人ヲ選舉シテ之ヲ主持セシメ開會ノ時ハ各常務委員交代シテ主席トナルモノトス

第二十七條 會計師公會ハ會員ノ協議ニヨリ章程ヲ定メ工商部ニ申請シテ認可ヲ得ヘシ

第二十八條 會計師公會章程ニハ左ニ掲クル各事項ヲ規定スヘシ

- 一 會員ノ入會及ヒ退會手續
- 二 役員ノ選舉方法及ヒ其ノ職務
- 三 會員及ヒ役員會ノ會議方法
- 四 趣旨、事業
- 五 會計師ノ德義維持ノ方法
- 六 會費
- 七 役員ノ在任年限
- 八 其ノ他會務處置ノ主要方法

第二十九條 會計師公會ノ役員ノ姓名、住所ニ變更アルトキハ其ノ都度工商部ニ届出ツヘシ

第三十條 會計師公會ハ半年毎ニ會務及ヒ職務概況ノ報告書ヲ作成シテ工商部ニ差出スヘシ

第三十一條 會計師カ委託ヲ受ケタル事件ニ對シテ要求スル報酬ハ會計師公會ニ於テ各別ニ其ノ率ヲ規定シ工商部ニ申請シテ其ノ認可ヲ得ヘシ

第七章 懲戒

第六章 産業關係法令



第三十二條 會計師及ヒ會計師公會ノ役員本章程及ヒ會計師公會ノ章程ニ違反スル行爲アルトキハ之ヲ懲戒ニ付シ其ノ行爲カ刑法ノ正條ヲ犯ストキハ刑法ノ規定ニヨリ處斷ス

第三十三條 會計師ノ懲戒ハ工商部ノ設立シタル會計師懲戒委員會之ヲ行フ但シ會計師公會亦其ノ決議ニ依リ之ヲ稟請スルコトヲ得會計師懲戒委員ハ工商部之ヲ任命ス

第三十四條 懲戒ハ左ノ四種ニ分ツ

- 一 訓 戒
- 二 千元以下ノ罰金
- 三 三年以下ノ停職
- 四 除名處分並ニ會計師證書取上

第八章 附 則

第三十五條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 民國十六年八月二十二日財政部ノ公布シタル會計師註冊章程ハ之ヲ廢止ス

會計師證書覆驗章程

民國十八年四月三日公布

第一條 會計師登記章程第八條第三款ノ再審査ヲ經ヘキ會計師證書ハ均シク本章程ニ依リ工商部ノ再審査ヲ申請スルハシ

第二條 再審査ヲ申請スル者ハ左ノ書類ヲ申請書ニ添附スヘシ

一 會計師證書

二 會計師登記章程第九條ニ掲クル各項ノ事實ナキコトノ證明書

前項第二款ノ證明書ハ會計師公會又ハ其ノ他ノ會計師二人ノ署名捺印アルコトヲ要ス

第三條 再審査ヲ申請スル者ハ再審査費二十元、印花税一元ヲ納付スヘシ

第四條 再審査合格者ニ對シテハ工商部ヨリ證書ヲ下付シ該會計師ヲ會計師總名簿ニ登録ス

第五條 再審査期間ハ六箇月トシ本章程公布施行ノ日ヨリ再審査ヲ開始シ期限内ニ再審査ヲ申請セサル者ハ會計師ノ資格ヲ失フモノトス

第六條 會計師再審査ニ合格シタル時ハ工商部ヨリ工商公報ヲ以テ之ヲ公告ス其ノ再審査期間經過シテ資格ノ消滅シタルトキ亦同シ

第七條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



### 公營事業技術人員領照法

民國十八年八月十九日公布

#### 第一章 總 則

第一條 國營省營市營又ハ其ノ他ノ公營事業ニ服務スル普通技術人員ハ均シク本法ニ依リテ執照ヲ領收スヘシ但シ既ニ技師證書ヲ領有スル者ハ此限ニアラス

第二條 前條ノ執照ハ各該事業ノ最高官署ヨリ之ヲ發給ス

第三條 執照ノ發給ヲ申請スル技術人員ノ合格スルト否トハ考試ヲ以テ之ヲ定ム

#### 第二章 考 試

第四條 技術人員ノ考試ハ執照ヲ發給スル所轄官署カ國民政府考試院ノ任命シタル技術專門家ト會同シ考試委員會ヲ組織シテ之ヲ行フ

第五條 技術人員考試ニ應スル者ハ左ニ掲クル資格ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 中華民國ノ國籍ヲ有シ年齡二十歲以上ナル者
- 二 各技術專門學校ヲ卒業シ又ハ技術機關ニ服務シテ憑證アル者
- 三 品行端正ニシテ不良ナル嗜好ナキ者

第六條 技術人員ノ考試ハ當分ノ中左ノ各種ニ分ツ

- 一 有線又ハ無線電信服務員ノ考試
- 二 電話員考試
- 三 河海航行員考試
- 四 飛行員考試
- 五 汽車機關員考試
- 六 其ノ他主管官署カ考試ヲ必要ト認メタル技術人員考試

第七條 技術人員ノ考試ハ學科及ヒ技術ニ分チ順次ニ之ヲ行フヘシ

第八條 考試ニ應スル技術人員ハ志願書ヲ認メ四寸ノ半身寫眞、卒業證書及ヒ其ノ他技術上ノ經驗ヲ證明スヘキ一切ノ書類ヲ添附シテ差出スヘシ

第九條 考試ニ應スル者ノ志願書ニハ左記ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 姓名
- 二 年齡
- 三 原籍
- 四 性別



- 五 黨籍
- 六 出身
- 七 經歷
- 八 保證人及其ノ職業
- 九 通信處

第十條 技術人員ノ考試科目地點及ヒ考試手續ハ考試期日ノ二箇月前政府公報及ヒ新聞紙ニ登載シテ之ヲ告示ス

第十一條 考試ノ及第者ハ甲乙丙ノ三等ニ分チ政府公報及ヒ新聞紙ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第三章 執照

第十二條 技術人員ノ考試及第者ハ主管考試機關ヨリ等次ヲ分チテ執照ヲ發給ス

第十三條 前條ノ執照ヲ領收スルトキハ執照費四元印花稅一元ヲ納入スヘシ

第十四條 技術人員執照ノ方式ハ各該考試機關ニ於テ之ヲ定ム

第四章 執照領有者ノ權利及ヒ義務

第十五條 甲等ノ技術人員執照ヲ領有スル者ハ該項ノ技術業務主任、領班等ノ職ニ任スルコトヲ得

乙丙二等ノ執照ヲ領有スル者ハ主任領班以下ノ各職ニ任スルコトヲ得

第十六條 執照ヲ遺失シタル者ハ新聞紙ニ登載シテ聲明シタル後原考試機關ニ對シ執照ノ再發給ヲ申請スルコトヲ

得但シ手續費二元ヲ納入スルコトヲ要ス

第十七條 公營事業ニ服務スル技術人員ニシテ未タ執照ヲ領有セス又ハ他人ノ執照ヲ冒用スル者ハ所轄監督官署之ヲ取締ルモノトス

第十八條 執照ヲ領有スル技術人員ニシテ左ニ掲クル各款ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ所轄官署ハ其ノ執照ヲ取上クルコトヲ得

- 一 職務上守ルヘキ秘密事項ヲ漏洩シタル者
- 二 各項技術取締ノ條例規則ニ違反シタル者
- 三 急迫ノ場合ニ際シテ職務上盡スヘキ義務ヲ盡サ、ル者
- 四 執照ヲ他人ニ貸與シタル者
- 五 不良ノ嗜好ニ染ミタル者

第十九條 執照ヲ取上ケラレタル者ハ其ノ職務ヲ解除ス但シ其ノ情狀輕キ者ニ對シテハ所轄監督官署ハ滿一箇年後ニ於テ事情ヲ酌量シテ其ノ復職ヲ許可スルコトヲ得

第五章 附則

第二十條 本法ノ施行ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム



### 國民政府工商部國貨陳列館規定

民國十七年六月二日部令公布

第一條 工商部國貨陳列館ハ首都ニ設立シ工商部ニ直隸ス

第二條 本館ニ左ノ職員ヲ置ク

一 館長

二 技術員

三 事務員

館長ハ部長之ヲ任命シ技術員事務員ハ館長ヨリ部ニ申請シテ任命ス但シ何レモ部員ヲ以テ兼任セシムルコトヲ得

第三條 館長ハ一人トシ部長ノ命ヲ承ケテ全館ノ事務ヲ綜理シ所屬職員ヲ監督ス

第四條 技術員ハ長官ノ命ヲ承ケテ技術事務ヲ分掌ス

第五條 事務員ハ長官ノ命ヲ承ケテ文書會計及ヒ庶務ヲ分掌ス

第六條 技術員事務員ノ數ハ館長ニ於テ擬定シ部ニ申請シテ之ヲ定ム

第七條 本館ノ經費ハ部ニ於テ豫算ヲ定メ國民政府之ヲ査定シテ支出ス

第八條 本館ニ左ノ三課ヲ置ク

一 總務課

二 出品課

三 編查課

第九條 總務課ノ職掌左ノ如シ

一 文件ノ發受、起草、文書ノ編纂、管理及ヒ印章ノ保管ニ關スル事項

二 什器ノ保存及ヒ物品ノ販賣ニ關スル事項

三 金錢ノ收支及ヒ豫算ノ編成ニ關スル事項

四 一切ノ庶務及ヒ他課ニ屬セサル事項

第十條 出品課ノ職掌左ノ如シ

一 全國出品ノ募集及ヒ裝置、陳列、保管ニ關スル事項

二 出品簿ノ記錄及ヒ標識、目錄、説明書ノ編成ニ關スル事項

三 觀覽者ノ待遇及ヒ出品改良ノ講演ニ關スル事項

四 國貨ノ提唱及ヒ販路擴張ニ關スル事項

五 外貨ノ研究、模造ニ關スル事項

六 省區、特別市區ノ國貨陳列館指導ニ關スル事項



- 七 國內外博覽會聯合參加ニ關スル事項
- 八 看守ノ訓練監督ニ關スル事項
- 第十一條 編查課ノ職掌左ノ如シ
  - 一 中外工商業ノ狀況及ヒ重要物産ノ調査ニ關スル事項
  - 二 中外工商業者ノ照會ニ對スル回答及ヒ紹介ニ關スル事項
  - 三 各國ノ參考品及ヒ刊行物ノ徵求ニ關スル事項
  - 四 本館發行ノ出版物及ヒ統計報告ニ關スル事項
- 第十二條 各課ニ課長一人課員若干人ヲ置キ技術員事務員ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十三條 本館ハ事務ノ必要ニヨリ看守及ヒ書記ヲ備用スルコトヲ得其ノ員數ハ館長ニ於テ擬定シ部ニ申請シテ之ヲ定ム
- 第十四條 本館ハ毎年一回期ヲ定メテ出品ヲ募集シ之ヲ整理陳列スル外隨時出品ヲ募集スルコトヲ得出品規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十五條 本館ハ毎年一回十月ニ於テ展覽會ヲ舉行シ會期ヲ一箇月トス但シ特殊ノ大宗出品アルトキハ臨時展覽會ヲ開クコトヲ得
- 會期中出品審査委員會ヲ組織ス審査規則ハ別ニ之ヲ定ム

- 第十六條 本館附設ノ賣品部ハ出品人ノ委託ヲ受ケテ出品ヲ販賣ス販賣規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十七條 本館ニ國貨改良委員會、工業圖書館及ヒ工業講演會ヲ附設ス其ノ各項規則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十八條 本館ハ國內工商界ヨリ評議員ヲ招聘スルコトヲ得但シ名譽職トス
- 第十九條 本館ハ員ヲ派シ又ハ各省市國貨陳列館及ヒ各省市縣農工商會ニ對シ近キニ就キテ工商狀況ノ調査ヲ委託スルコトヲ得若シ國外工商業ノ狀況ヲ調査スルノ必要アル時ハ部ニ申請シテ辦理ス
- 第二十條 本規定事宜ヲ盡サ、ルモノアルトキハ部令ヲ以テ修正スルコトヲ得
- 第二十一條 本規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 省區特別市國貨陳列館組織大綱

民國十七年六月二日部令公布

- 第一條 省區特別市ニハ各國貨陳列館ヲ設立シ名稱ヲ某々省區又ハ某々市國貨陳列館ト定ム
- 第二條 省區特別市ノ國貨陳列館ハ省區市政府ノ所在地ニ設ケ省區市政區ノ主管廳局ニ隸屬シ並ニ工商部國貨陳列館ノ指導ヲ受ク
- 第三條 省區特別市ノ國貨陳列館ニ館長一人技術員事務員若干人ヲ置キ館長ハ主管廳局ヨリ省區市政府ニ申請シテ任命シ省區市政府ヨリ其ノ履歷ヲ工商部ニ報告ス技術員事務員ハ館長之ヲ選定シ省區市主管廳ニ申請シテ認可ヲ



得ルモノトス

第四條 省區特別市國貨陳列館ノ分課及ヒ職掌ハ工商部國貨陳列館規程第八條、第九條、第十條、第十一條ノ規定ヲ適用ス但シ規程第十條ノ六、七兩項ハ除外ス

第五條 省區特別市國貨陳列館ハ毎年一回八月ニ於テ展覽會ヲ開ク會期及ヒ出品ノ募集審査ハ工商部國貨陳列館規程第十四條、第十五條ヲ適用ス

第六條 省區特別市ノ國貨陳列館ノ辦事經過狀況ハ省市區主管廳局ニ報告スル外毎年末ニ於テ取り纏メテ工商部ニ報告スルコトヲ要ス

第八條 省區特別市國貨陳列館ハ賣品部及ヒ國貨改良委員會、工商業圖書館、商業講演會ヲ附設スルコトヲ得但シ商工部所定ノ規則ニ依リ辦理スルコトヲ要ス

第九條 省區特別市國貨陳列館ノ出版スル刊行物ハ省市區主管廳局ニ呈送スル外工商部及ヒ工商部國貨陳列館ニ寄送シテ考查ニ備フルモノトス

第十條 省區特別市ノ國貨陳列館ハ相互ニ協議シテ出品ヲ交換スヘシ

第十一條 内外博覽會ノ開會セラル、時ハ省市區國貨陳列館ハ出品募集ノ責任ヲ負フ

第十二條 省市區國貨陳列館ハ本組織大綱各規定ニ依リ地方ノ狀況ニ就キ章程ヲ起草シ省市區主管廳局ノ審査確定ヲ經テ工商部ニ轉報スヘシ

第十三條 省區ニ隸屬スル市縣ニ國貨陳列館ヲ設立スルトキハ本組織大綱ヲ參照シテ章程ヲ起草シ省市區政府ノ許可ヲ得テ辦理スヘシ

第十四條 本組織大綱ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 海外中華國貨陳列館組織大綱

民國十七年十二月三十一日公布

第一條 中華民國々民ノ海外ニ居留スル者ハ各該地方ノ中居留民ノ比較的多數ニシテ商業繁盛ノ場所ニ於テ中華國貨陳列館ヲ開設スルコトヲ得

第二條 海外中華國貨陳列館ハ其ノ所在地ノ名稱ニ從ヒ某々地中華國貨陳列館ト稱ス

第三條 海外中華國貨陳列館ハ該地ノ居留商人中ヨリ一人ヲ館長ニ推舉シ並ニ館長ニ於テ技術員、事務員及ヒ書記、看守等各若干人ヲ選任シテ辦理ヲ主持シ其ノ經費亦該地ノ居留商人ヨリ募集支出ス

第四條 海外中華國貨陳列館ハ該地ノ公使又ハ領事ノ指導ヲ受クヘシ

第五條 海外中華國貨陳列館ハ規定ヲ起草シ土地ノ公使又ハ領事ヲ經由シテ工商部ニ轉報スヘシ

第六條 海外中華國貨陳列館ニハ工商部ヨリ印章ヲ頒發シテ信守ニ資セシム

第七條 海外中華國貨陳列館ハ其ノ募集セル經費ノ收支各款ヲ該地ノ居留民ニ公告シ並ニ公使又ハ領事ヲ經由シテ



本部ニ彙報スヘシ

第八條 海外中華國貨陳列館々長、技術員、事務員ハ各履歷書ヲ認メ該地ノ公使又ハ領事ヲ經由シテ工商部ニ報告スヘシ

第九條 海外中華國貨陳列館カ國內工商業者ノ出品ヲ募集スルトキハ工商部ニ出願シテ各省及ヒ各特別市ニ轉達シ並ニ首都ノ國貨陳列館ヲシテ轉旋辦理セシムルコトヲ申請スルコトヲ得其ノ出品募集規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 海外中華國貨陳列館ニ左記ノ三股ヲ置ク

一 總務股

二 出品股

三 編查股

第十一條 總務股ノ職掌左ノ如シ

- 一 文書ノ起草、發受、書類ノ編纂、保管及ヒ職印ノ押捺保管ニ關スル事項
- 二 公物ノ保管及ヒ國內工商界ノ遊歴者接待並ニ賣品事項ノ經理
- 三 金錢ノ出納及ヒ豫算決算ノ編成並ニ賣上高報告ニ關スル事項
- 四 設備ニ關スル一切及ヒ其ノ他ノ各股ニ關セサル事項

第十二條 出品股ノ職掌左ノ如シ

- 一 國內及ヒ土地ノ出品募集及ヒ裝置、陳列、保管ニ關スル事項
- 二 出品簿ノ記帳及ヒ貼札、目錄ノ編成ニ關スル事項
- 三 觀覽人ノ接待及ヒ出品ノ説明ニ關スル事項
- 四 看守ノ訓練監督ニ關スル事項

第十三條 編查股ノ職掌左ノ如シ

- 一 土地工商業ノ狀況及ヒ國貨ノ販路調査ニ關スル事項
- 二 土地ノ輸入貨物検査及ヒ稅則ノ報告ニ關スル事項
- 三 國內商工業者ノ質問及ヒ紹介ニ對スル回答ニ關スル事項
- 四 館内發行ノ刊行物及ヒ統計ニ關スル事項

第十四條 各股ニ股長一人股員若干人ヲ置キ技術員事務員ヲ以テ之ニ充テ事務ノ必要ノ爲看守及ヒ書記ヲ雇用スルコトヲ得其ノ員數ハ館長適宜之ヲ定ム

第十五條 海外中華國貨陳列館ハ賣品部ヲ附設シ出品人ノ委託ヲ受ケテ出品ヲ販賣スヘシ其ノ賣品規則ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條 海外中華國貨陳列館ハ毎年一回展覽會ヲ舉行スヘシ其ノ會期ハ館長適宜之ヲ定ム

第十七條 本組織大綱事宜ヲ盡サル、モノアルトキハ館長土地ノ狀況ヲ斟酌シ規程起草ノ時適宜之ヲ定ム



第十八條 本組織大綱ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 海外中華國貨陳列館出品募集規則

民國十七年十二月二十六日公布

第一條 海外中華國貨陳列館ハ土地ノ居留商人ニ就キ出品ヲ募集スル外國内各省及ヒ各特別市工商業者ノ重要出品ヲ募集シ土地ニ於テ賣行ノ望ミアリ並ニ國際貿易品ト爲スヘキモノヲ擇ヒテ分類陳列スヘシ

第二條 海外中華國貨陳列館ノ募集スル出品ハ暫ク左記十種類ニ分ツ

- 一 染織工業品類
- 二 化學工業品類
- 三 製造工業品類
- 四 教育用品類
- 五 飲食用品類
- 六 藝術品類
- 七 原料品類
- 八 農林品類

### 九 礦產品類

十 其ノ他ノ商品類

第三條 海外中華國貨陳列館カ國內各省各特別市ノ出品ヲ募集スルトキハ先ツ出品人ヨリ見本品又ハ雛型ヲ製造シテ出品セシメ賣行ノ見込アルトキハ大宗出品トシテ指定スルコトヲ得

第四條 海外中華國貨陳列館カ國內ノ出品ヲ募集スルトキハ工商部ニ申請シ部ヨリ各省及ヒ各特別市ニ通達シ所屬國貨陳列館又ハ其ノ他ノ出品取扱機關ニ轉飾シ規定ニ從ツテ辦理セシムルモノトス

第五條 國內各省及ヒ各特別市カ海外中華國貨陳列館ノ出品ヲ募集スルトキハ交通關係ヲ斟酌シテ上海特別市ノ國貨陳列館又ハ廣東省ノ國貨陳列館ニ送り代ツテ輸出セシムヘシ

出品ニ關スル文電ハ均シク工商部國貨陳列館之ヲ辦理シテ連絡ニ資セシム

第六條 海外中華國貨陳列館カ國內ノ出品ヲ募集シ上海廣東ノ國貨陳列館ヲ經由シテ輸出ヲナストキ立替拂ヲ爲サシメタル積込、運送、保險、倉庫等ノ費用ハ全額ヲ右該陳列館ヨリ償還スヘシ

第七條 海外中華國貨陳列館カ見本、雛型又ハ大宗ノ出品ヲ募集スルトキハ總テ代價ヲ支拂フモノトス但シ國內工商業者自ラ出品陳列ヲ希望シ以テ販路ノ擴張ニ利スル者ハ此例ニアラス

第八條 國內ノ出品人カ見本、雛型又ハ大宗物品ノ募集ニ應スルトキハ均シク様式ニ照シテ説明書一通ニ記入ヲナシ一部ヲ工商部國貨陳列館ニ送り一部ハ海外中華國貨陳列館ニ送ルモノトス其ノ説明書式ハ別ニ之ヲ定ム



第九條 海外中華國貨陳列館カ出品ヲ領收シタルトキハ領收書ニ記入ヲナシ工商部國貨陳列館ヲ經由シテ各別ニ出品人ニ送付スヘシ

第十條 海外中華國貨陳列館ノ見本、雛形ノ募集ニ應シテ海外ニ積ミ出シタルモノハ總テ返還セス但シ貴重品ニシテ出品人カ説明書ニ價格ヲ註明シテ返還ノ要求ヲナシタルモノハ一箇年後之ヲ返還ス若シ損失アルトキハ海外中華國貨陳列館カ價格ニ應シテ賠償ノ責ヲ負フモノトス

第十一條 國內出品人ハ出品事項ニ關シ海外中華國貨陳列館ト直接交渉シ又ハ本部ノ國貨陳列館ヲ經由シテ照會ヲナスコトヲ得

第十二條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 海外中華國貨陳列館賣品規則

民國十七年十二月二十六日公布

第一條 海外中華國貨陳列館ハ均シク賣品部ヲ附設シ出品人ノ委託ヲ受ケテ出品ノ販賣ヲ取扱フ

第二條 賣品部ニ主任一人ヲ置キ館長總務股長ノ命ヲ承ケ賣品事務ヲ經理シ賣品、物品受渡、記帳等ニ關シ適宜僱員ヲ採用スルコトヲ得其ノ員數ハ館長事ノ簡簡ヲ視テ之ヲ定ム

第三條 賣品部ノ使用スル印章ハ其ノ土地ノ商業慣習ニ依リテ辦理ス

第四條 賣品部ノ販賣スル物品ハ左ノ二種ニ分ツ

一 土地ノ出品

二 國內ノ出品

第五條 賣品カ賣品部ニ交付セラレサル間ハ出品股ニ於テ分類シテ番號ヲ附シ且記帳ヲナスモノトス

第六條 賣品方法ヲ左ノ二種ニ分ツ

一 即 賣

二 約 定

第七條 賣品部ニ左記各種ノ帳簿及ヒ書類ヲ備フ

一 物品記帳簿

二 現金出納簿

三 賣品日記簿

四 物品價格人名別簿

五 三聯式傳票

六 其ノ他ノ必要ナル書類

第八條 賣品部ノ帳簿ハ總テ複式ヲ用キ賣上金ハ毎日全額ヲ總務股長ニ交付シ股長ハ之ヲ受領シテ署名シタル後保



管又ハ支出シ毎月末一回決算シ並ニ在庫品ヲ検査ス

第九條 代理販賣ヲ爲シタル物品代金ハ翌月三日以前ニ精算シテ各別ニ土地出品人ニ交付シ又ハ工商部國貨陳列館ヲ經由シテ國內各出品人ニ送付スルコトヲ要ス

第十條 即賣ヲナストキハ賣品係ヨリ三聯式傳票ヲ發行シ一葉ヲ買主ニ交付シ一葉ヲ記帳方ニ交付シテ記帳セシメ一葉ハ賣品係之ヲ保存ス

第十一條 賣品部ノ販賣シタル物品代金ハ總テ現金ヲ收納シ割引ヲナサス

第十二條 海外中華國貨陳列館カ土地ノ出品又ハ國內ノ出品ニ對シテナス賣買ノ紹介ハ總テ賣品部ヲシテ約定ノ方法ヲ以テ之ヲ行ハシム

第十三條 約定販賣ハ買主ニ對シ其ノ物品ノ優良ヲ保證シ賣主ニ對シ其ノ代金ノ支拂ヲ保證シ均シク賣品部ニ於テ全責任ヲ負擔ス

第十四條 土地ノ商店カ國貨ヲ取扱フ場合ハ見本ニ憑リ電報又ハ書翰ヲ以テ本部ノ國貨陳列館ヲ經由シテ國內ノ出品人ニ通知シ該陳列館出品人ニ代ツテ荷物ノ受渡、積出及ヒ代金領收等ノ手續ヲ行ヒ總テ普通ノ輸出貿易ノ方法ニ依リテ辦理ス

第十五條 海外中華國貨陳列館カ國貨ノ販賣ヲナストキハ原價ニ荷造費、運賃、保險料、倉敷料及ヒ手續費ヲ加ヘ其ノ都度賣價ヲ工商部國貨陳列館ニ彙報シテ國內出品人ニ通知スヘシ

第十六條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 全國舉辦物品展覽會通則

民國十七年十二月十七日公布

第一條 國內各省市縣ニ於テ國貨ヲ提唱シテ物品ヲ募集シ開會展覽シテ研究改良ニ供シ以テ產銷ヲ廣ムルモノハ均シク名ケテ展覽會ト爲ス

第二條 展覽會ハ之ヲ左ノ三種ニ分ツ

一 全國物品展覽會

二 地方物品展覽會

三 特種物品展覽會

第三條 全國物品展覽會ハ工商部カ各省又ハ特別市政府ト會同シ適宜ノ地點ヲ指定シテ順次開催ス各省市ハ均シク會期ヲ二箇月乃至四箇月トナスヘク開催ノ時ハ工商部ヨリ行政院ニ申請シ國民政府ニ轉請シテ許可ヲ得ヘシ

第四條 地方物品展覽會ハ省又ハ特別市政府ヨリ適宜ノ地點ヲ指定シテ開催シ該省ノ市縣ニ就テ物品ヲ募集シ並ニ其ノ他ノ省市ノ重要物品ヲ募集シテ參加セシムルコトヲ得會期ハ二週間乃至二箇月ヲ以テ限リト爲シ開催ノ時ハ省又ハ特別市政府ヨリ工商部ニ申請シ行政部ヲ經由シテ國民政府ノ許可ヲ得ヘシ



第五條 特種物品展覽會ハ生絲、茶、陶磁器等ノ特種物品ヲ募集シ專ラ當該各業者ノ研究改良ノ爲ニ設ケ當該業者ノ發起ニヨリ業務ニ關係アル土地ヲ選擇シテ開催ス會期ハ二週間乃至二箇月トシ開催ノ時發起人ヨリ省又ハ特別市政府ヨリ工商部ニ申請シテ許可ヲ得工商部ニ轉報スヘシ

第六條 全國物品展覽會ハ毎年一回開催シ地方物品展覽會、特種物品展覽會ハ各省市各當業者隨時開催スルコトヲ得第七條 各團體又ハ同業者カ聯合シテ物品移動展覽會ヲ開催スル場合ハ第四條又ハ第五條ニ依照シテ許可スルモノトス

第八條 物品展覽會ノ開催ヲ申請スルトキハ左記書類ヲ具備スルコトヲ要ス

一 申請書 事實ニ據リテ理由ヲ説明シ並ニ經費調達方法ヲ記述スヘシ

二 章程 開催地、會期及ヒ其ノ組織概要

三 各項規則 出品ノ募集、審査、販賣及ヒ會場規則等

四 書式圖面 出品願書、説明書、目錄及ヒ會場圖面等

第九條 各省及ヒ各特別市ハ工商部公布ノ國貨陳列館規則ニ準據シテ先ツ國貨陳列館ヲ開設シタル後展覽會ヲ開催スヘシ

第十條 展覽會ノ出品募集ヘ均シク各省及ヒ各特別市ノ國貨陳列館ニ委託シテ責任ヲ以テ辦理セシムルコトヲ得

第十一條 物品展覽會ニ於テ賣却セラレサルモノハ均シク各出品人ニ返還シ賣却セラレタルモノハ其ノ代金ヲ交付

ス但シ大宗物品ハ出品者ヨリ常ニ人ヲ會場ニ派シテ自ラ保管ヲナサシム

第十二條 物品展覽會開催ノ許可アリタルトキハ工商部ニ免稅證書及ヒ運賃割引券ノ發行ヲ請フコトヲ得

第十三條 展覽會ノ出品ハ均シク審査ノ上等級ヲ分チテ賞獎ヲナスモノトス

第十四條 國民政府カ萬國博覽會ヲ發起開催シ又ハ之ニ參加シタルトキハ各省市縣ハ同一年內ニ於テ展覽會ヲ開催スルコトヲ得ス

第十五條 本通則ハ首都及ヒ各省各特別市ノ國貨陳列館カ毎年規定ニ依リ館內ニ於テ舉行スル定期物品展覽會ニ對シテ之ヲ適用セス

第十六條 本通則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 華僑回國興辦實業獎勵法

民國十八年二月二十七日公布

第一條 華僑ノ歸國シテ實業ヲ興ス者ハ本法ニ依リ之ヲ獎勵スルコトヲ得

第二條 本法ニ謂フ所ノ實業ノ範圍左ノ如シ

一 建築ニ關スル事業

二 交通ニ關スル事業

第六章 産業關係法令



- 三 製造ニ關スル事業
- 四 農礦ニ關スル事業
- 五 其ノ他法規ニ依リ人民ノ經營ヲ許可セラレタル事業
- 第三條 華僑カ實業ヲ興シ本法ノ獎勵ヲ受ケムトスル者ハ僑務委員會ヲ經由シテ所轄機關ニ轉請シ許可ヲ得テ方メテ辦理スルコトヲ得
- 第四條 華僑カ實業ヲ興シ其ノ安全ノ爲必要ナルトキハ地方官署ノ特別保護ヲ申請スルコトヲ得
- 第五條 華僑カ實業ヲ興ストキハ僑務委員會ニ對シ交通機關ニ照會シ其ノ需要スル材料及ヒ生産物品ノ運輸上ニ便宜ヲ與ヘラレタキ旨ノ申請ヲナスコトヲ得
- 第六條 華僑カ實業ヲ興ストキハ僑務委員會ニ對シ專員ヲ派遣シ又ハ地方官署ニ通牒シテ指導保護ヲ與ヘラレタキ旨ノ申請ヲナスコトヲ得
- 第七條 華僑カ實業ヲ興シテ確實ニ成績アル者ハ僑務委員會ヨリ國民政府ニ對シ獎章、褒狀ノ授與ヲ申請スルコトヲ得
- 第八條 外國人カ華僑ノ名義ニ假託シ又ハ華僑ト外國人ト共同シ國內ニ在ツテ投資スル者ハ均シク本法ノ獎勵ヲ受ケルコトヲ得ス
- 第九條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 銀行登録章程

民國十八年二月三十日公布

- 第一條 銀行ヲ開設シテ預金、貸付、爲替、手形割等ノ業務ヲ營ム者ハ本章程ニ依リテ登録スルコトヲ要ス  
前項ノ業務ヲ經營シテ銀行ト稱セス公司、莊號、店舖ト稱スルモノハ均シク本章ニ依リテ辦理ス
  - 第二條 銀行ヲ開設スルトキハ先ツ定款ヲ定メテ左ニ掲クル各項ヲ規定シ地方政府ヲ經由シテ之ヲ財政部ニ提出シ又ハ直接財政部ニ提出シテ許可ヲ得ルコトヲ要ス
  - 一 名稱
  - 二 組織
  - 三 資本總額
  - 四 本店所在地
  - 五 營業範圍
  - 六 營業年限
  - 七 創立者ノ姓名、本籍、住所
- 株式ヲ募集シテ設立スル銀行ハ前項ニ從ツテ辦理スル外株式募集規定ヲ定メ地方政府ヲ經由シテ之ヲ財政部ニ提出シ又ハ直接財政部ニ提出シ許可ヲ得タル後方メテ株式ノ募集ヲナスコトヲ得



第三條 設立ヲ許可セラレタル銀行ハ左ニ掲クル各件ヲ具備シ地方政府ヲ經由シテ之ヲ財政部ニ提出シ又ハ直接財政部ニ提出シ検査ヲ經テ登録シ營業許可證ノ下付ヲ受ケタル後方メテ營業ヲ開始スルコトヲ得

- 一 出資人ノ姓名、原籍、住所表
- 二 各出資人ノ拂込及ヒ未拂込資本金額表
- 三 各職員ノ姓名、原籍、住所表
- 四 所在地銀行公會又ハ商會ノ保證書
- 五 登録費

第四條 個人資本又ハ無限責任組織ノ銀行ハ第三條第一款ニ從ツテ辦理スル外左ニ掲クル文書ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 出資者ノ詳細ナル履歷書
- 二 出資者ノ財産證明書

第五條 株式會社組織ノ銀行ハ第三條第一款ニ從ツテ辦理スル外左ニ掲クル文書ヲ添附スルコトヲ要ス

- 一 創立總會ノ決議錄
- 二 監査役又ハ検査員ノ報告書

第六條 銀行カ他ノ銀行ト合併シ又ハ資本ヲ増減スルトキハ地方政府ヲ經由シ又ハ直接財政部ニ申請シ許可ヲ得テ

登録スルコトヲ要ス

第七條 銀行カ登録ヲ申請スルトキハ左ニ掲クル資本總額ニ依リ各別ニ登録費ヲ納付スルコトヲ要ス

|        |       |
|--------|-------|
| 五十萬元以下 | 五十元   |
| 百萬元以下  | 百元    |
| 二百萬元以下 | 百五十元  |
| 三百萬元以下 | 二百五十元 |
| 五百萬元以下 | 四百元   |
| 一千萬元以下 | 六百元   |

一千萬元以上百萬元ヲ増ス毎ニ五十元ヲ増徴シ百萬元ニ滿タサルトキハ亦百萬元ニ準シテ計算ス

第九條 銀行カ資本ヲ増加シテ登録ヲ申請スルトキハ前條ノ規定ニ依リ増加後ノ資本總額ニ照シテ登録費ヲ納付スルコトヲ要ス但シ從前納付シタル銀額ハ之ヲ控除スルコトヲ得

第十條 銀行カ許可證ノ記載事項ヲ變更スルトキハ原許可證ヲ財政部ニ返還シテ新許可證ト取換フヘシ但シ許可證下附手数料十元ヲ納付スルコトヲ要ス

第十一條 本章程施行前既ニ營業ヲ開始シ而シテ未タ金融監理局ノ登録ヲ經サル銀行ハ均シク本章程施行後六箇月内ニ再登録ヲ申請スヘシ但シ前清度支部及ヒ北平舊財政部ニ登録セル銀行ノ登録費ハ第七條ニ規定スル半額ヲ納



付セシメ並ニ財政部ヨリ新許可證ヲ下付シ前ニ下付セラレタル舊許可證ハ同時ニ廢棄ス

第十二條 本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 銀行登録章程施行細則

民國十八年五月三日公布

第一條 銀行登録ノ申請人ハ個人資本組織ノ營業人、無限責任組織ノ社員全員、株式會社組織ノ取締役及ヒ監査役ノ全員トス

第二條 銀行カ財政部ニ登録許可ヲ申請シタル時ハ許可アリタル後申請書ト之ニ對スル指令及ヒ其ノ附屬文件トテ地方政府ニ差出スヘシ

第三條 銀行カ資本検査登録ノ申請ヲナストキハ拂込資本ヲ其ノ地ノ中央銀行又ハ其ノ代理店ニ預入シ該銀行ノ證明書ヲ添附シテ地方政府ヲ經由シ又ハ直接財政部ニ申請スヘシ其ノ地ニ於テ中央銀行又ハ其ノ代理店ナキ時ハ其ノ他ノ登録銀行又ハ信用アル商店ニ預金シ其ノ證明書ヲ添附スルコト前項ト同シ但シ財政部カ不適當ト認メタルトキハ其ノ指定スル銀行ニ預替ヲサシムルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依リ中央銀行ノ預金證明書ヲ添附スルトキハ登録章程第三條第四款ニ規定スル保證書ノ提出ヲ免除スルコトヲ得

第四條 銀行カ資本ノ検査登録ヲ申請スルトキハ資本拂込領收證控ヲ抄録シ之ヲ申請書ニ添附シテ地方政府ヲ經由シ又ハ直接財政部ニ差出スヘシ

第五條 財政部ハ銀行カ申請書ニ添附シテ差出シタル證明書又ハ保證書ニ疑義アリト認メタル場合員ヲ派シ又ハ地方政府ニ委託シテ之ヲ検査スルコトヲ得

第六條 銀行カ地方政府ヲ經由シテ財政部ニ資本ノ検査登録ヲ申請シタル場合地方政府ハ其ノ資本及ヒ證明書ヲ調査シ確實ナルコトヲ明ニシタルトキハ該政府ノ確認證ヲ添附シテ財政部ニ送付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ地方政府ノ確認證ヲ得タル申請人ニ對シテハ登録章程第三條第四款ニ規定スル保證書ノ提出ヲ免除スルコトヲ得

第七條 銀行カ註冊章程第十一條ノ規定ニ依リ再登録ヲ申請スルトキハ其ノ申請書内ニ前申請ノ年月日及ヒ許可年月日ヲ記入シ並ニ其ノ許可指令年月日ヲ抄録添付スヘシ

第八條 銀行カ註冊條例第十一條ノ規定ニ依リ再登録ヲ申請スルトキハ最近ノ營業報告書、資產負債表、損益表及ヒ其ノ他歷年ノ營業ヲ證明シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ

第九條 銀行登録章程第十一條ノ規定ニ依リ再登録ヲ申請スルトキハ本細則第二條乃至第六條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十條 銀行カ登録章程第十一條ノ規定ニ依リ再登録ヲ申請スルトキハ登録章程第三條第一款乃至第四款及ヒ第四



- 條第五條ニ掲ケタル添附スヘキ各書類ヲ省略スルコトヲ得但シ出資人ノ姓名又ハ其ノ出資額及ヒ職員ノ姓名カ舊登録ト異ナル場合ハ其ノ各書表及ヒ履歴證明書ヲ補足添附スルコトヲ要ス
- 第十一條 銀行カ登録章程第十一條ノ規定ニ依リ再登録ヲ申請スルトキ其ノ定款カ舊財政部ニ差出シタルモノト異ナラサル場合ハ再ヒ抄録シテ提出スルコトヲ免除ス但シ國民政府ノ法令ト牴觸スルモノハ無効トス
- 第十二條 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 修正中央銀行條例

民國十七年十月六日公布

- 第一條 中央銀行ハ國家銀行トシテ國民政府之ヲ設置經營ス
- 第二條 中央銀行ノ資本總額ヲ國幣貳千萬元ト定メ國庫ヨリ一回ニ全額ヲ拂込ミテ營業ヲ開始ス  
中央銀行カ業務ノ必要ニヨリ資本ヲ増加スルトキハ理事會ノ議決監事會ノ同意ニヨリ國民政府ニ申請シテ資本ヲ擴充シ並ニ株式ノ公募ヲ爲スコトヲ得但シ資本總額ノ百分ノ四十九ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第三條 中央銀行ヲ上海ニ設ケ其ノ分支店ハ各地ニ於テ之ヲ設置スルコトヲ得
- 第四條 中央銀行ハ三十箇年ヲ以テ營業期間ト爲シ期間滿了ノ時ハ國民政府ニ申請シテ之ヲ延長スルコトヲ得
- 第五條 中央銀行ニ對シ國民政府ハ左ノ特權ヲ授與スルモノトス

- 一 兌換券條例ニ準據スル兌換券ノ發行
- 二 國幣ノ鑄造及ヒ發行
- 三 國庫事務取扱
- 四 内外公債ノ募集又ハ其ノ事務ノ取扱
- 第六條 中央銀行カ第五條ニ掲クル事務ヲ辦理スルトキ法令ニ準據スヘキ明文ナキ場合ハ國民政府ニ査定ヲ申請スヘシ
- 第七條 中央銀行ハ左ニ掲クル各項ノ業務ヲ營業スルコトヲ得
- 一 國庫證券及ヒ確實ナル商業手形ノ賣買割引及ヒ再割引
  - 二 爲替業務及ヒ約束手形ノ發行
  - 三 地金銀及ヒ各國貨幣ノ賣買
  - 四 各種預金ノ取扱並ニ證券、手形、契約書及ヒ其ノ他貴重物品ノ代理保管
  - 五 金銀貨及地金銀ヲ擔保トスル貸付
  - 六 各種勸定ノ代理受領及ヒ送達
  - 七 國民政府財政部ノ發行又ハ保證セル證券ヲ擔保トスル期限附又ハ無期限ノ貸付、但シ其ノ金額及ヒ利率ハ理事會ノ議定ヲ必要トス



第八條 中央銀行ハ投機ノ性質ヲ有スル營業及ヒ左ニ掲クル各項ノ事務ヲナスコトヲ得ス

一 不動産ノ購入又ハ不動産擔保貸付、但シ業務上必要ノ不動産ハ此限ニアラス

二 各種會社ノ株券又ハ社債券ノ購入又ハ引受

三 商品擔保貸付

四 各種商工業ノ直接又ハ間接經營

五 無擔保又ハ市價ナキ物品ヲ擔保トスル貸付及ヒ當座貸越

第九條 中央銀行ニ理事會ヲ設ケ國民政府ヨリ理事九人ヲ任命シテ之ヲ組織ス九人ノ中央實業界、商界、銀行界ヲ

代表スル者各一人ヲ舉ケ任期ハ均シク三年ト爲シ任期滿了後重任ヲ命スルコトヲ得理事會ニ常務理事五人ヲ置キ

國民政府理事中ヨリ之ヲ指定ス常務理事ハ在職期間中他ノ銀行ノ職務ヲ兼任スルコトヲ得ス

前項理事ノ數及ヒ選任方法ハ株式公募ノ後別ニ之ヲ定ム

第十條 中央銀行ニ總裁一人ヲ置キ國民政府之ヲ簡任シ任期ハ均シク三年トス任期滿了後重任ヲ命スルコトヲ得

總裁副總裁ハ常務理事中ヨリ之ヲ選選ス

第十一條 總裁ハ全行ノ事務ヲ總理シ副總裁ハ總裁ヲ輔佐シテ全行ノ事務ヲ處理ス總裁ハ理事會ノ主席トナリ總裁

缺席スルトキハ副總裁ヲ以テ之ヲ代フ

第十二條 中央銀行ニ監事會ヲ設ケ國民政府監事七人ヲ任命シテ之ヲ組織ス七人ノ中實業界、商界、銀行界ヲ代表

スル者各二人、國民政府審計機關ヲ代表スルモノ一人ヲ舉ク

監事ノ任期ハ審計機關代表ヲ國民政府ヨリ隨時任命スル外其ノ他ノ六人ハ均シク二年トシ毎年國民政府ニ於テ各界代表者中一人ヲ交送ス但シ第一回ニ任命セラレタル監事ノ任期ヲ一年トシ國民政府之ヲ指定ス

監事會ノ主席ハ監事ノ互選トス

第九條第二項ノ規定ハ之ヲ本條ニ準用ス

第十三條 中央銀行ニ業務、發行ノ二局ヲ置キ營業、發行ノ事務ヲ分掌ス業務局ニ總經理一人ヲ置キ發行局ニ總發行一人ヲ置キ均シク總裁ノ申請ニヨリ國民政府之ヲ簡任ス

第十四條 左ニ掲クル事項ハ理事會ニ於テ議決シ總裁ニ交付シテ之ヲ執行セシム

一 業務方針ノ審定

二 發行額ノ審定

三 回收準備ノ規則

四 各種規則ノ制定

五 分店支店ノ設立及ヒ廢止

六 資本ノ増加

七 其ノ他總裁ヨリ議決ヲ求メタル事項



第十五條 監事會ノ職務左ノ如シ

- 一 全行帳簿ノ検査
- 二 準備金ノ検査
- 三 豫算決算ノ検査

第十六條 中央銀行ハ毎年十二月末ヲ以テ總決算期ト爲シ左ニ掲クル表冊ヲ作成シ理事會ノ査定ヲ經テ國民政府ニ

呈報スヘシ

一 財産目録

二 資産負債表

三 營業報告書

四 損益計算書

五 利益分配表

第十七條 中央銀行ハ毎年純益ノ中ヨリ百分ノ五十以上ヲ控除シテ本行ノ積立金ト爲スヘシ

第十八條 本條例ハ理事會ノ議決ヲ經テ總裁ヨリ國民政府ノ査定ヲ申請シ之ヲ修正スルコトヲ得

第十九條 中央銀行ハ本條例ニ依リ定款ヲ訂正シ國民政府ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ定款ハ國民政府ニ申請シテ之ヲ改正スルコトヲ得

第二十條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 中國銀行條例

民國十七年十月二十六日公布

第一條 中國銀行ハ國民政府ノ特許ヲ經國際爲替銀行トシテ株式會社ノ規定ニ準據シテ之ヲ組織ス

第二條 中國銀行ノ資本總額ヲ國幣二千五百萬元トシ之ヲ二十五萬株ニ分チ一株國幣百元トシ政府五萬株ヲ引受ケ

餘ハ民間ノ引受トス

中國銀行カ業務ノ必要上資本ヲ増加スルトキハ株主總會ノ議決ヲ經テ財政部ニ申請シ許可ヲ得テ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 中國銀行ハ總行ヲ上海ニ設ケ國內國外ニ於ケル貿易上必要ノ土地ニ分支店ヲ設ケ又ハ他ノ銀行ト代理契約又ハ爲替取組契約ヲ締結スルコトヲ得

第四條 中國銀行株券ハ總テ記名式ヲ用キ株主ハ中華民國ノ國籍ヲ有スル者ヲ以テ限リト爲ス

第五條 中國銀行ノ營業年限ハ本條例公布ノ日ヨリ起算シテ三十箇年トシ期間滿了スルトキハ株主總會ノ決議ニヨリ財政部ノ許可ヲ經テ之ヲ延長スルコトヲ得

第六條 毎年ノ營業純利益ハ其ノ總額ノ十分ノ一以上ヲ控除シテ積立金トシタル後始メテ利益ノ配當ヲナスコトヲ得



前項積立金及ヒ利益配當ハ株主總會ノ決議ヲ經テ財政部ニ報告スルコトヲ要ス

第七條 前條積立金ノ用途左ノ如シ

- 一 資本ノ損失填補
- 二 利益配當ノ平均維持

第八條 中國銀行ハ政府ノ委託ヲ受ケ左ニ掲クル各項ノ事務ヲ辦理ス

- 一 政府ノ代理トシテ海外國公債ノ發行及ヒ元利金ノ償還支拂事務取扱
- 二 政府ノ在外各種公金ノ管理及ヒ出納事務
- 三 海外貿易ノ發展及ヒ援助事務
- 四 國庫事務ノ一部代理

第九條 中國銀行ハ財政部ノ特許ヲ經テ兌換券ヲ發行スルコトヲ得但シ兌換券條例ニ準據シテ辦理スルコトヲ要ス

第十條 中國銀行ノ營業種類左ノ如シ

- 一 國內外爲替及ヒ荷爲替
- 二 確實ナル商業上ノ約束手形及ヒ爲替手形ノ割引又ハ買入
- 三 地金銀及ヒ各國貨幣ノ賣買
- 四 各種預金ノ取扱並ニ證券類及ヒ其ノ他一切ノ貴重品ノ代理保管

五 平素取引アル銀行、會社、銀號及ヒ個人ノ各種手形金ノ代理取立

六 確實ナル物品ヲ擔保トスル貸付

七 政府ノ委託ニ依ル内國公債ノ募集又ハ其ノ事務ノ取扱

八 營業狀況ヲ酌量シテ公債證券ヲ賣買スルコトヲ得

第十一條 中國銀行ハ第十條ニ掲クル各項營業ノ外左記諸項及ヒ其ノ他ノ事業ヲ經營スルコトヲ得ス

- 一 各種ノ無擔保貸付及ヒ保證
- 二 本銀行ノ株券買入並ニ本銀行ノ株券ヲ貸付ノ擔保品トスルコト
- 三 營業上必要ナル不動産以外ノ不動産ノ購入又ハ受人
- 四 各種商工業ノ直接經營

第十二條 中國銀行ニ取締役十五人監査役五人ヲ置キ財政部ヨリ取締役三人監査役一人ヲ任命シ其ノ餘ノ取締役十人監査役四人ハ株主總會ニ於テ民間株主カ百株以上ヲ所有スル民間株主中ヨリ之ヲ選任ス董事ノ任期ハ四年監査役ノ任期ハ三年トシ任期滿了ノ時選舉又ハ命令ニヨリ重任スルコトヲ得

第十三條 中國銀行ニ常務取締役五人ヲ置キ取締役之ヲ互選シ並ニ財政部ヨリ常務取締役ノ一人ヲ指名シテ專務取締役トス中國銀行ニ總理一人ヲ置キ常務取締役之ヲ互選シテ財政部ニ呈請ス總理事故アリテ職務ヲ執行スル能ハサルトキハ常務取締役中ヨリ一人ヲ互選シテ之ヲ代理セシム



第十四條 中國銀行ノ株主總會ハ左ノ二種ニ分ツ

一 通常株主總會

二 臨時株主總會

第十五條 通常株主總會ハ毎年一回本店所在地ニ於テ開會シ取締役會之ヲ召集ス

第十六條 取締役會カ重要事件ト認ムルモノアリテ會議ヲ必要トスルトキハ臨時株主總會ヲ召集スヘシ

第十七條 取締役會ニ於テ取締役ノ過半数又ハ監査役全員又ハ株主總會ニ於テ會員五十人以上並ニ全株ノ百分ノ十以上ヲ所有スル者カ重要事件ノ爲ニ會議ヲ要求スルトキハ臨時株主總會ヲ召集スヘシ

第十八條 株主總會開會ノトキ十株以上ヲ所有シ又ハ十株以上ノ株主ヲ代表スル株主ハ開會日ノ六十日以前ニ登録シタル者ニアラサレハ會員トシテ會議ニ列席スル資格ヲ有セス

第十九條 株主總會ニ於ケル會員ノ議決權ハ十株ニツキ一票トシ百株以上ハ三十株ヲ増ス毎ニ一票ヲ遞増ス

第二十條 株主總會ノ會員カ事故アリテ會議ニ出席スルコト能ハサルトキ其ノ代理ヲ委託スル者ハ會員ヲ以テ限リトス

第二十一條 中國銀行ニ於テ本條例及ヒ本行ノ定款ニ違反スル行爲アルトキ又ハ政府ニ不利ナル行爲アルトキハ財政部之ヲ制止スルコトヲ得

第二十二條 中國銀行ハ本條例ノ主旨ニ依リテ詳細ニ定款ヲ定メ株主總會ニ提出シテ之ヲ議決シ財政部ニ申請シテ

許可ヲ得ヘシ之ヲ改正スルトキ亦同シ

第二十三條 本條例ハ株主總會ノ議決ヲ經事務取締役ヨリ財政部ニ査定修正ヲ申請スルコトヲ得

第二十四條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 交通銀行條例

民國十八年十一月十六日公布

第一條 交通銀行ハ國民政府ノ特許ヲ得テ全國ノ實業ヲ發展セシムル爲ノ銀行トシ株式會社ノ規定ニ準據シテ之ヲ組織ス

第二條 交通銀行ノ資本總額ハ國幣一千萬元ト定メ之ヲ十萬株ニ分チ一株ヲ國幣一百元トシ政府ニ於テ資本總額中前後二萬株ヲ引受ケ餘ハ民間ノ引受トス

交通銀行カ業務ノ必要ニ因リ資本ヲ増加スルトキハ株主總會ノ決議ヲ經テ財政部ニ申請シ其ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第三條 交通銀行ハ本店ヲ上海ニ設ケ實業上必要ナル區域ニ支店分店ヲ設ケ又ハ他ノ銀行ト代理契約ヲナスコトヲ得



第四條 交通銀行ノ株券ハ總テ記名式ヲ用キ其ノ賣買讓渡ハ中華民國ノ國籍ヲ有スル者ヲ以テ限リトナス

第五條 交通銀行ノ營業年限ハ本條例公布ノ日ヨリ起算シ滿三十箇年トス期間滿了シタルトキハ株主總會ノ議決ヲ經テ財政部ニ申請シ許可ヲ得テ之ヲ延長スルコトヲ得

第六條 交通銀行ハ政府ノ委託ヲ受ケテ左ニ掲クル各項ノ事務ヲ經理スルコトヲ得

- 一 公共實業機關ノ債券發行ヲ代理シ並ニ元利支拂事務ヲ經理ス
- 二 交通事業ノ公金出納事務ヲ代理ス
- 三 其ノ他ノ實業ノ獎勵及ヒ發展事務ヲ辦理ス
- 四 國庫事務ノ一部分ヲ經理ス

第七條 交通銀行ハ財政部ノ特許ヲ經テ兌換券ヲ發行スルコトヲ得但シ兌換券條例ニ準據シテ辦理スルコトヲ要ス

第八條 交通銀行ハ左ニ掲クル各項ノ業務ヲ營ムコトヲ得

- 一 國家、地方又ハ會社ノ債券ノ募集又ハ引受取扱
- 二 國家、地方又ハ會社ノ債券及ヒ確實ナル株券擔保ノ貸付
- 三 實業ニ用ウヘキ不動産不動産及ヒ實業繁盛ナル土地ノ不動産ヲ擔保トスル貸付但シ貸付總額ハ拂込資本ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス
- 四 確實ナル商業手形割引

五 預金ノ取扱

六 信託業務

七 各種勘定ノ代理受領及ヒ送達

第九條 交通銀行ハ第八條ニ掲クル各項營業ノ外左ニ掲クル各項及ヒ其ノ他ノ事業ヲ營ムコトヲ得ス

一 各種ノ無擔保貸付及ヒ保證

二 本銀行ノ株券買入並ニ本銀行ノ株券ヲ擔保トスル貸付

三 不動産ノ賣買但シ業務上必要ナル不動産ハ此限ニアラス

第十條 交通銀行ニ取締役十五人監査役五人ヲ置キ財政部ニ於テ取締役三人監査役一人ヲ任命シ其ノ餘ノ取締役十人監査役四人ハ株主總會ニ於テ百株以上ヲ所有スル民間株主中ヨリ之ヲ選任ス取締役ノ任期ハ四年トシ監査役ノ任期ハ三年トス任期滿了ノ時ハ選舉又ハ命令ニヨリ重任スルコトヲ得

第十一條 交通銀行ニ常務取締役五人ヲ置キ取締役之ヲ互選シ並ニ財政部ヨリ常務取締役ノ一人ヲ指定シテ專務取締役トス

交通銀行ニ總理一人ヲ置キ常務取締役中ヨリ之ヲ互選シ財政部ニ呈請ス總理事故アリテ職務ヲ執行スル能ハサルトキハ常務取締役中ヨリ一人ヲ互選シテ之ヲ代理セシム

第十二條 交通銀行ノ株主總會ヲ左ノ二種ニ分ツ



一 通常株主總會

第十三條 通常株主總會ハ毎年一回本店所在地ニ於テ開會シ取締役會之ヲ召集ス

二 臨時株主總會

第十四條 取締役會カ重要事項ノ爲總會ノ開會ヲ必要ト認メタルトキハ臨時株主總會ヲ召集スヘシ

第十五條 取締役會ハ取締役ノ過半数又ハ監査役全部又ハ株主總會ノ會員五十人以上並ニ資本總額ノ百分ノ十以上

ヲ所有スル株主カ重要事項ノ爲總會ノ開會ヲ請求スルトキハ株主總會ヲ召集スヘシ

第十六條 株主總會ノ時十株以上又ハ十株以上ノ株主ヲ代理スル株主ハ開會日前六十日以内ニ登録ヲナスニアラサ

レハ會員トシテ會議ニ出席スル資格ヲ有セス

第十七條 株主總會ノ會員カ事故アリテ會議ニ出席スル能ハサルトキ其ノ代理人ハ會員ヲ以テ限リトナス

第十八條 毎年ノ營業利益ハ其ノ總額ノ十分ノ一ヲ控除シテ積立金トシ殘餘ヲ配當スルコトヲ得

前項ノ積立金及ヒ配當金ハ株主會議ノ議決ヲ經財政部ニ呈報シテ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第十九條 前項積立金ノ用途左ノ如シ

一 資本ノ損失填補

二 利益配當ノ平均維持

第二十條 交通銀行ニ於テ本條例及ヒ本行ノ定款ニ違反スル行爲アリ又ハ政府ニ不利ナル行爲アルトキハ財政部之

ヲ制止スルコトヲ得

第二十一條 交通銀行ハ本條例ノ主旨ニ從ヒ詳細ニ定款ヲ定メ株主會議ノ議決ヲ經財政部ニ申請シテ許可ヲ得ヘシ  
之ヲ改正スルトキ亦同シ

第二十二條 本條例ヲ改正スルトキハ株主總會ノ議決ヲ經取締役會ヨリ財政部ニ申請シテ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二十三條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

検査電影片規則

民國十八年四月二十七日公布

第一條 活動寫眞「フィルム」ハ本國製ト外國製トヲ問ハス本規則ニ依リ検査ヲ經テ許可ヲ受クルニ非サレハ映寫  
公開スルコトヲ得ス

第二條 活動寫眞「フィルム」ハ左記ノ標準ニ依リ之ヲ検査ス

- 一 黨義及ヒ國體ニ違反セサルモノ
- 二 風教及ヒ公安ヲ害セサルモノ
- 三 迷信、邪説及ヒ封建思想ヲ提唱セサルモノ

第三條 活動寫眞「フィルム」ハ各省ニ在リテハ民政廳、教育廳又ハ大學區ノ大學カ會同シテ辦理シ特別市又ハ各



縣市ニ在リテハ公安局、社會局、教育局會同シテ辦理ス

前項ノ検査機關カ検査ヲ執行スルトキハ各該地ノ同級黨部ニ通知シ員ヲ派シテ參加指導セシムヘシ

第四條 本國ニ於テ製造スル活動寫眞『フィルム』ハ製作設計ノ時製作人ヨリ該『フィルム』ノ内容ヲ簡略ナル説明書ニ具陳シ所在地ノ検査機關ニ差出シ許可ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ許可ヲ得タル『フィルム』ハ之ヲ完成シテ映寫公開スルトキ更ニ申請書及ヒ詳細ナル説明書各四部ヲ該『フィルム』ト共ニ差出シ検査ヲ申請スヘシ

第五條 外國製ノ活動寫眞『フィルム』ハ販賣人又ハ所有者ヨリ輸入ノ際申請書及ヒ左ノ各項ヲ記載シタル詳細ナル説明書各四部ヲ該『フィルム』ト共ニ該地ノ検査機關ニ差出シテ検査ヲ申請スヘシ

一 『フィルム』ノ題名(外國製ハ原名及ヒ譯名併せて記載スルモノトス)

二 卷數及ヒ幕數

三 『フィルム』ノ價格

四 製作ノ年月日及ヒ地點

五 製作人及ヒ演出者ノ姓名、住所、履歷

六 申請人ノ姓名、住所、履歷(法人ナルトキハ其ノ名稱及ヒ事務所所在地並ニ其ノ代表者ノ姓名、住所)

第七條 検査機關ハ前條ノ申請ニ據リ該『フィルム』ノ内容カ第二條ノ規定ニ合致セリト認メタルトキハ検査機關

ヨリ先ツ臨時映寫公開許可證ヲ下付シ並ニ該『フィルム』ニ檢印ヲナス外左ノ辦法ニ依リ辦理スヘシ

一 各省及ヒ各特別市ニ在リテハ検査機關ヨリ其ノ申請書ニ説明書ヲ添附シテ検査狀況ヲ内政部教育部ニ報告シテ審査ヲ稟申スヘシ

二 各市縣ニ在リテハ検査機關ヨリ其ノ申請書ニ説明書ヲ添附シテ検査狀況ヲ所轄民政廳、教育廳又ハ大學區ノ大學ノ審査ヲ經由シ内政部教育部ニ報告シテ審査ヲ稟申スヘシ

内政部教育部ノ許可ヲ經タルトキハ説明書ヲ留メ置キ映寫公開許可證ヲ交付スヘシ

第八條 活動寫眞『フィルム』ノ検査許可ヲ經タルモノハ三年ヲ以テ有効期間トシ期間満了後更ニ検査ヲ申請スヘシ

第九條 活動寫眞『フィルム』ノ検査許可ヲ經テ許可證アルモノヲ各地ニ送リテ映寫公開スルトキ映寫人ハ該許可證ヲ公開地ノ検査機關ニ差出シテ査閱ヲ請ヒ並ニ映寫ノ時検査機關ハ員ヲ派シテ一回之ヲ檢閱スヘシ

第十條 検査許可ヲ經テ映寫公開ノ許可證ヲ下付セラレタル『フィルム』ハ公開ノ時第二條ノ規定ニ合セサルモノアルコト判明シタル場合ハ即時映寫ヲ禁止スル外内政部教育部ニ報告シテ其ノ公開映寫許可證ノ取上ヲ申請スヘシ

第十一條 映寫公開ヲ許可セラレタル活動寫眞『フィルム』ノ題名ヲ變更シタルトキハ検査機關ヲ經由シ内政部教育部ニ轉呈シテ許可ヲ得ヘシ其ノ内容ヲ變更シタルトキハ本規則所定ノ程序ニ依リ再ヒ検査ヲ申請スヘシ

第十二條 検査機關ハ隨時員ヲ派シテ検査證ヲ携帯セシメ活動寫眞公開映寫ノ場所ニ至リテ檢察セシムルコトヲ得



- 前項ノ實地檢察人ハ隨時映寫人ニ對シ『フィルム』及ヒ許可證ノ検査ヲナスコトヲ得
- 第十三條 検査許可ヲ經タル『フィルム』ノ檢印ヲ毀損シ又ハ映寫公開許可證ヲ遺失シタルトキハ其ノ都度事由ヲ具シテ原検査機關ニ對シテ檢印ノ再押捺ヲ申請シ又ハ內政部教育部ニ轉呈シテ許可證ノ再下付ヲ申請スヘシ
- 第十四條 本規則ノ規定ニ違反シ又ハ申請書内ニ虚偽ノ記載アルコト判明シタルトキハ該『フィルム』製作者又ハ映寫公開人ヲ五十元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得
- 第十五條 本規則施行後民國十七年九月三日內務部ノ公布シタル活動寫眞『フィルム』検査規則ヲ廢止ス
- 第十六條 本規則ハ民國十八年七月一日ヨリ施行ス

### 無線電器材輸入制限條例

民國十八年七月三十一日公布

- 第一條 無線電器材ハ無線電報電話ニ用ウル各種ノ器材ヲ包括スルモノトス
- 第二條 各種無線電器材ヲ輸入又ハ販賣スル商店ハ器材ノ輸入以前ニ於テ送狀、機械樣式、説明書及ヒ詳細ナル價格表ヲ該區ノ地方最高官署ヲ經由シテ軍政部ニ差出シ護照ノ下付ヲ申請シ之ヲ受領シタル後ニアラサレハ之ヲ輸入スルコトヲ得ス若シ該商店カ外國租借地内ニアルトキハ最寄ノ最高官署ヲ經由シテ護照ノ下付ヲ轉請スヘシ
- 第三條 各商店カ第二回目ヨリ無線電器材ノ輸入護照ノ下付ヲ申請スルトキハ前回ニ輸入シタル各項器材ノ販賣地

購賣人器材品名及ヒ數量等ノ詳細ナル表ヲ附スヘク若シ調査ノ上事實ニ符合セサルトキハ護照ノ下付ヲ停止スルコトヲ得

- 第四條 軍事時期内ニ在リテハ各種ノ無線電器材ハ軍政參謀兩部カ輸入禁止ノ必要アリト認メタルトキ護照ノ下付ヲ停止スルコトヲ得
- 第五條 護照ノ下付ヲ受ケスシテ各種ノ無線電信器材ヲ輸入シタルモノヲ海關ニテ查獲シタルトキハ該器材ヲ差押ヘ軍政部ニ報告シテ處分ス
- 第六條 各商店カ護照ノ下付ヲ受ケタル後納付スヘキ各項ノ稅捐ハ財政部實行稅則ノ規定ニ從ツテ辦理ス
- 第七條 各商店カ護照ノ下付ヲ申請スルトキハ護照費拾元印花稅貳元ヲ納入スヘシ
- 第八條 本條例ハ交通部建設委員會カ其ノ使用スル各種無線電器材ヲ輸入スル爲ニ該部會ノ護照ヲ所有スル者ニ對シテ適用セス但シ軍政參謀兩部ニ通牒スルコトヲ要ス
- 第九條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

## 工 會 法

民國十八年十月二十一日公布

### 第一節 設 立



第一條 同一産業又ハ同一職業ノ男女工人カ智識技能ヲ増進シ生産ヲ發達セシメ勞働條件及ヒ生活ヲ維持改善スルヲ以テ目的トナシ現ニ産業ニ従事スル十六歳以上ノ産業工人百人以上又ハ職業工人五十人以上ヲ集合スルトキハ本法ヲ適用シテ工會ヲ組織スルコトヲ得

産業工會職業工會ノ種類ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 工人ニシテ左ニ掲クル資格ノ一ヲ有スル者ハ同一産業又ハ同一職業ニ屬セサル場合ト雖モ其ノ工會ニ加入シテ會員タルコトヲ得但シ雇主又ハ其ノ代理人ハ此限ニ在ラス

一 曾テ其ノ工會ノ職員ニ選任セラレタリシ者

二 曾テ同一産業又ハ同一職業ノ工人タリシ者

第三條 國家行政、交通、軍事、軍事工業、國營産業、教育事業、公用事業各機關ノ職員及ヒ雇員ハ本法ヲ援用シテ工會ヲ組織スルコトヲ得ス

第四條 工會ノ主管監督機關ハ其ノ所在地ノ省市縣政府トス

第五條 工會ノ組織ヲ發起スルトキハ第一條ニ規定スル人數ノ連署ニ依リ代表者五人乃至九人ヲ選出シ組織願書ニ章程及ヒ代表者ノ履歷書各二通ヲ添附シ之ヲ所轄官署ニ提出シテ組織ヲ出願スヘシ

所轄官署カ前項ノ出願ヲ接受シタルトキハ二週間以内ニ審査批示ヘシ其ノ更正又ハ査復ヲ命シタル場合更正申請書又ハ査復届出書ニ對シテモ亦同シ

工會ハ組織出願カ許可セラレタル後三週間以内ニ其ノ成立期日及ヒ選出セラレタル職員ノ履歷住所ヲ所轄官署ニ届出ツスヘシ所轄官署ハ該呈報書ヲ接受シタルトキハ直チニ之ヲ公告スヘシ

未タ組織ノ許可ヲ得サルモノ及ヒ前項ノ呈報ヲ爲サルモノハ本法ニ規定スル所ノ權利及ヒ保障ヲ享受スルコトヲ得ス

第六條 同一區域内ニ於ケル同一産業ノ工人又ハ同一職業ノ工人ハ唯一箇ノ工會ヲ組織スルコトヲ得

第七條 工會ヲ組織セントスル者ハ創立大會ヲ開キテ章程ヲ議定スヘシ

前項章程ノ議定ハ發起人四分ノ三以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第八條 工會章程ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一 名稱

二 目的

三 區域及ヒ會事務所所在地

四 會員ノ資格及ヒ其ノ權利義務ノ規定

五 會員ノ入會退會及ヒ除名ノ規定

六 職員ノ規定

七 會議ノ規定



- 八 會議及ヒ其ノ他會計ノ規定
- 九 互助事業ノ規定
- 十 章程變更ノ規定

第九條 章程ノ變更ハ所轄官署ノ許可ヲ經ルニ非サレハ效力ヲ生セス

第十條 工會ハ法人トス

第十一條 工會ハ理事ヲ置クコトヲ要ス

理事ハ會員中ヨリ之ヲ選任ス但シ必要アルトキハ所轄官署ノ許可ヲ經テ會員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

理事ハ工會一切ノ事務ヲ處理シ外部ニ對シテハ工會ヲ代表ス

理事ノ代表權ニ對シテ加フル制限ハ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十二條 工會ノ理事又ハ其ノ代理人カ職務執行ニヨリテ他人ニ加ヘタル損害ニ對シテハ工會ニ於テ賠償ノ責任ヲ負フヘシ但シ勞働條件ニ關シ會員ヲシテ協同行爲ヲ爲サシメ又ハ會員ノ行爲ニ對シテ制限ヲ加ヘタル結果雇主ヲシテ雇用關係上ノ損害ヲ受ケシメタル場合ハ此限ニ在ラス

工會ノ職員及ヒ會員私人ノ對外行爲ハ工會ニ於テ其ノ責任ヲ負ハス

第十三條 左ニ掲クル事項ニツキテハ會員大會又ハ代表者大會ノ議決ヲ經ヘシ

- 一 工會章程ノ變更
- 二 經費ノ收支豫算
- 三 事業報告及ヒ收支決算ノ承認
- 四 勞働條件ノ維持又ハ變更
- 五 基金ノ積立、管理及ヒ處分
- 六 會内公共事業ノ開始
- 七 工會聯合會ノ組織及ヒ其ノ加入又ハ脫退
- 八 工會ノ解散、合併又ハ分立

第十四條 工會ハ章程又ハ大會ノ決議ニ依リ監事ヲ置クコトヲ得

監事ハ工會ノ帳簿、會計ヲ審査シ各種事業ノ進行狀況ヲ調査シ及ヒ各職員ノ職務ヲ監察ス  
監事ハ會員中ヨリ之ヲ選任スヘシ

## 第二節 任 務

第十五條 工會ノ職務ハ左ノ如シ

- 一 團體契約ノ締結改正又ハ廢止但シ所轄官署ノ許可ヲ經ルニ非サレハ效力ヲ生セス
- 二 會員ノ職業紹介及ヒ職業紹介所ノ設置



- 三 貯蓄機關、勞働保險、醫院、診療所及ヒ託兒所ノ創設
- 四 生産、消費、購買、信用、住宅等各種組合ノ組織
- 五 職業教育及ヒ其ノ他勞働教育ノ開始
- 六 圖書館及ヒ書報社ノ設置
- 七 出版物ノ刊行
- 八 會員懇親會、俱樂部及ヒ其ノ他各種娛樂場ノ設備
- 九 工會又ハ會員間ノ紛糾調停
- 十 勞資間ノ爭議調停
- 十一 勞働法規ノ規定、改廢事項ニ關シ行政機關法院及ヒ立法院ニ意見ヲ陳述シ並ニ行政機關、法院及ヒ立法機關ノ諮問ニ答申スルコト
- 十二 工人ノ家庭、經濟狀況及ヒ其ノ就業、失業狀況ノ調査並ニ勞工統計ノ編纂
- 十三 其ノ他工作狀況ヲ改良シ會員ノ利益ヲ増進スヘキ事業ニ關シ工會カ未タ之ヲ開始セス及ヒ前各款ニ記載シ又ハ章程ニ定ムル所ノ互助事業ニシテ所轄官署カ開始ノ必要アリト認ムルモノハ員ヲ派シテ之ヲ協助辦理スルコトヲ得

第十六條 第三條ニ列舉スル各種事業ニ從事スル工人ノ組織スル工會ハ團體協約締結權ヲ有セス

第十七條 工會ハ其ノ會員ヨリ會費ヲ徵收スルコトヲ得但シ入會費ハ一人一元ヲ超過スルコトヲ得ス經常費ハ各該會員ノ收入ノ百分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

特別基金、臨時募集金又ハ割當金ハ所轄官署ノ許可ヲ經ルニ非サレハ徵收スルコトヲ得ス

第十八條 工會ハ六箇月毎ニ其ノ財産狀況ヲ會員ニ報告スヘシ若シ會員十分ノ一以上ノ連署アルトキハ代表者ヲ選出シテ工會ノ財産狀況ヲ檢査スルコトヲ得

### 第三節 監督

第十九條 工人ハ唯同一産業又ハ同一職業ノ一工會ニ加入スルコトヲ得

第二十條 工會ハ工人ヲ強迫シテ入會セシメ及ヒ其ノ退會ヲ阻止スルコトヲ得ス

工會ハ法律及ヒ章程ニ於テ入會ノ資格アル者ノ入會ヲ拒絶スルコトヲ得ス亦法律及ヒ章程ニ於テ入會ノ資格ナキ者ノ入會ヲ承認スルヲ得ス

工會ハ未タ工會ニ入ラサル工人ノ工作ヲ妨害スルコトヲ得ス

第二十一條 工會々員ハ隨時工會ヲ退出スルコトヲ得但シ工會章程ニ退會豫告期間ヲ定メタル場合ハ先ツ之ヲ豫告スルヲ要ス

前項ノ豫告期間ハ一箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條 工會ノ會員ニ科スル罰金額ハ其ノ三日間ノ賃銀ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス工會ハ正當ノ理由アリ及ヒ會



員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ會員ヲ除名スルコトヲ得ス

第二十三條 勞資間ノ爭議ニ於テハ調停仲裁ノ順序ヲ經タル後會員大會ニ於テ無記名投票ヲ以テ全體會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ罷工ヲ宣言スルコトヲ得ス

工會ハ罷工ノ時公共秩序ノ安寧ヲ妨害シ及ヒ雇主又ハ他人ノ生命財産ニ危害ヲ加フルコトヲ得ス  
工會ハ標準賃銀ヲ超過スル賃銀ノ割増ヲ要求シテ罷工ヲ宣言スルコトヲ得ス

第三條ニ列擧スル各事業ノ工人ハ罷工ヲ宣言スルコトヲ得ス

第二十四條 工會章程又ハ理事其ノ他ノ職員ヲ變更スルトキハ所轄官署ニ届出テ並ニ所轄官署ハ二週間内ニ之ヲ公告スヘシ公告前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ約ス

第二十五條 工會ノ組織出願カ許可セラレタルトキハ空白ノ會員名簿及ヒ會計簿各二部ヲ主管官署ニ提出シテ捺印ヲ請求スヘシ其ノ後新帳簿ヲ用ウルトキ亦同シ

前項ノ會員名簿及ヒ會計簿ハ記帳後一部ハ會ノ事務所ニ保存シ一部ハ所轄官署ニ提出スヘシ  
會員名簿ニハ會員ノ姓名、人數、入會年月日、就業先及ヒ其ノ就業、失業、移動、死亡、傷害ノ狀況ヲ記載スヘシ  
會計簿ノ收支記載ハ別冊ニ番號ヲ附シテ領收證ヲ貼付スヘシ所轄官署カ必要ト認メタルトキハ工會ヲシテ會計師ヲ雇用シテ之ヲ鑑査セシムルコトヲ得

第二十六條 工會ハ毎年六月及ヒ十二月ニ於テ左ニ掲クル各項ノ表冊、帳簿ヲ所轄官署ニ提出スヘシ所轄官署ハ必

要ト認メタルトキハ工會ヲシテ隨時右各項ヲ申告セシムルコトヲ得

- 一 職員ノ姓名、履歴
- 二 會員名簿
- 三 會計簿
- 四 事業經營ノ狀況
- 五 各項爭議事件ノ經過

第二十七條 工會ノ職員又ハ會員ハ左ニ掲クル各項ノ行爲アルコトヲ得ス

- 一 商店又ハ工場ノ封鎖
- 二 濫リニ商店又ハ工場ノ貨物器具ヲ取り出シ又ハ毀損スルコト
- 三 工人及ヒ雇主ヲ逮捕又ハ毆打スルコト
- 四 雇主ニ強要シテ其ノ紹介スル工人ヲ雇用セシムルコト
- 五 集會又ハ巡行ニ際シテ武器ヲ携帯スルコト
- 六 工人ニ對シテ金錢ヲ強要スルコト
- 七 會員ノ怠業ヲ命令スルコト
- 八 濫リニ手数料又ハ寄附金ヲ徵收スルコト



第二十八條 工會ノ選舉又ハ決議カ法令又ハ章程ニ違反スルトキハ所轄官署ハ之ヲ取消サシムルコトヲ得  
第二十九條 工會ノ章程カ法令ニ違反スルトキハ所轄官署ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得  
第三十條 工會カ前二條ノ處分ニ不服アルトキハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得但シ訴訟ノ提起ハ處分決定ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四節 保護

第三十一條 雇主又ハ其ノ代理人ハ工人カ工會ノ會員又ハ職員タルノ故ヲ以テ其ノ雇用ヲ拒絶シ又ハ解雇シ及ヒ其ノ他不利益ノ待遇ヲ爲スコトヲ得ス  
第三十二條 雇主又ハ其ノ代理人ハ工人ニ對シ工會ノ職務ヲ爲サルコト又ハ工會ニ入會セサルコト又ハ工會ヲ退會スルコトヲ以テ雇用條件ト爲スコトヲ得ス  
第三十三條 雇主又ハ其ノ代理人ハ勞資爭議ノ調停仲裁期間中ハ工人ヲ解雇スルコトヲ得ス  
第三十四條 工會ハ所得稅、營業稅及ヒ登錄稅ヲ免セラルルモノトス  
第三十五條 工會ハ其ノ債務者カ破産シタルトキハ其ノ財產ニ對シ優先ニ辨濟ヲ要求スル權利ヲ有ス  
第三十六條 工會ノ所有スル下記ノ各財產ハ之ヲ沒收スルコトヲ得ス  
一 會ノ事務所、學校、圖書館、書報社、俱樂部、醫院、診療所、託兒所、生産消費住宅購買等ノ組合ノ動産及ヒ不動産

二 工會ノ基金、勞働保險金

第五節 解散

第三十七條 工會ハ左ニ掲クル事由ノ一アルトキ所轄官署之ヲ解散スルコトヲ得

- 一 存立ノ基本要件カ不備トナリタルトキ
- 二 法規ニ違反シテ其ノ情狀ノ重大ナルトキ
- 三 安寧秩序ヲ破壊シ又ハ公益ヲ妨害スルトキ

第三十八條 工會ハ前條ノ命令ニ依リ解散スル外左ニ掲クル事由ノ一ニヨリ解散スルコトヲ得

- 一 大會ニ於テ解散ヲ決議シタルトキ但シ所轄官署ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス
- 二 章程ニ規定スル解散事由ノ發生シタルトキ

三 工會ノ破産

四 會員人數ノ不足

五 工會ノ合併又ハ分立

第三十九條 工會ノ合併又ハ分立ハ關係各工會ノ二分ノ一以上ノ同意ヲ經並ニ所轄官署ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第四十條 合併後引續キ存在シ又ハ新ニ設立シタル工會ハ合併ニヨリ消滅シタル工會ノ權利義務ヲ繼承ス

分立ニヨリ成立シタル工會カ分立ニヨリ消滅シタル工會又ハ分立後引續キ存在スル工會ノ權利義務ヲ繼承スルト



キハ其ノ繼承スル權利義務ノ部分ハ分立ヲ議決スルトキ之ヲ議決スルコトヲ要ス並ニ所轄官署ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第四十一條 工會ハ合併又ハ分立スルニ先タチ其ノ債權者カ一箇月以上ノ一定期間内ニ異議ヲ聲明スヘキ旨公告スルコトヲ要ス但シ判明セル債權者ニ對シテハ一々之ヲ催告スヘシ

債權者カ前項ノ一定期間内ニ異議ヲ聲明シタルトキハ工會ハ其ノ債務ヲ辨償シ又ハ相當ノ擔保ヲ供フルニアラサレハ合併又ハ分立スルコトヲ得ス

前二項ノ規定ニ違反シテ合併又ハ分立シタルトキハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四十二條 工會ノ解散ハ命令ニ由ル解散ヲ除クノ外二週間以内ニ解散事由及ヒ年月日ヲ所轄官署ニ届出ツヘシ

第四十三條 工會ノ解散ハ合併分立又ハ破産ヲ除クノ外速ニ其ノ財産ノ清算ヲ行フヘシ

前項ノ清算ハ民法ノ法人ノ規定ニ依ル

第四十四條 工會解散ノ時ハ債務ヲ皆済スル外其ノ餘剩財産ノ歸屬ハ其ノ章程ノ規定又ハ大會ノ決議ニ依ルヘシ規定及ヒ決議ナキトキハ該會ノ加入スル工會聯合會ニ歸屬シ工會聯合會ニ加入セサルトキハ工會事務所所在地ノ地方自治團體ニ歸屬セシム

### 第六節 聯 合

第四十五條 工會會員ノ智識技能ヲ増進シ生産ヲ發達セシメ互助事業ヲ辦理スル爲ニ同一産業又ハ職業ノ工會ハ所

轄官署ノ許可ヲ經テ工會聯合會ヲ組織スルコトヲ得

工會聯合會ヲ組織スルトキハ各關係工會ノ聯合大會ヲ召集シテ章程ヲ議定スヘシ其ノ章程ハ所轄官署ノ許可ヲ經ルコトヲ要ス

工會聯合會ハ前二項ノ規定ノ外本法ノ規定ヲ準用ス

第四十六條 工會ハ政府ノ許可ヲ得ルニ非サレハ外國ノ工會ト聯合スルコトヲ得ス

### 第七節 罰 則

第四十七條 工會ハ工會ノ職員又ハ會員カ第二十七條各項ノ行爲ノ一アルトキハ二百元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ得但シ其ノ行爲カ刑法ニ觸ルルトキハ刑法ニ依リテ處罰ス

第四十八條 雇主又ハ其ノ代理人カ第三十一條、第三十二條ノ規定ニ違反シタルトキハ三百元以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 雇主又ハ其ノ代理人カ第三十三條ノ規定ニ違反シテ工人ヲ解雇スルトキハ工人一名ヲ解雇スル毎二十元以上百元以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 工會ノ理事左ノ事由ノ一アルトキハ百元以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第二十四條第二十六條第四十二條第五十一條ノ事項ニ關シテ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタルトキ
- 二 第二十五條ノ規定及ヒ第二十九條ノ命令ニ違反シタルトキ
- 三 第四十一條第一項第二項ノ規定ニ違反シテ合併又ハ分立シタルトキ



第八節 附 則

第五十一條 本法施行前ニ成立セル工會ハ本法施行ノ日ヨリ二箇月以内ニ第五條ノ程序ニ依リ新ニ組織ヲ申請スヘシ

第五十二條 本法施行前同一區域内ニ二箇以上ノ同一産業又ハ同一職業ノ工會カ存在シタルトキハ本法施行ノ日ヨリ二箇月以内ニ合併ヲ行フコトヲ要ス

第五十三條 本法ノ施行期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

雇主傭工爭執仲裁條例

民國十五年八月十六日國民政府公布

第一條 雇主傭工間ノ爭議ニ對シテハ仲裁會ヲ設立シテ之ヲ解決ス

第二條 仲裁會ハ政府ヨリ仲裁代表者一人ヲ任命シ及ヒ爭議關係ノ雙方ヨリ各代表者二人ヲ派シ共同シテ之ヲ組織ス爭議ノ關係カ多方面ニ屬スル場合ハ雙方ノ外其餘ノ各方面ヨリ代表者一人又ハ數人ヲ出スコトヲ得

第三條 仲裁會ハ雇主及ヒ傭工間ノ各紛糾即チ賃銀問題、傷害賠償問題、勞働時間問題、雇主待遇問題及ヒ其ノ他ノ爭議問題ニシテ雙方ノ解決シ能ハサル問題ヲ解決ス

第四條 雇主及ヒ傭工カ自ラ爭議ヲ解決シ能ハザルトキハ雙方又ハ一方ヨリ事情ヲ農工廳ニ稟明シ本條例第二條ニ

從ツテ仲裁會ノ組織ヲ申請スヘシ農工廳ハ直チニ之ヲ國民政府ニ轉呈シ並ニ代ツテ仲裁會ノ組織ヲ請フヘシ此項ノ仲裁會ハ唯爭議者一方ノ申請アルトキハ其ノ他ノ一方ハ之ヲ承認スルノ義務アルモノトス

第五條 仲裁會カ本條例ニ從ツテ成立シタルトキハ該關係傭工ノ生活狀況、該地ノ經濟狀況及ヒ該種工業又ハ商業ノ經濟狀況ヲ調査シタル後公平ニ解決スヘシ

第六條 公共事業又ハ政府經營ノ企業ニ於テ發生シタル爭議ニ關スル仲裁會ノ判決ニ對シ雙方又ハ一方カ不満足ナル場合ハ國民政府ニ上訴シテ最後ノ決定ヲ請求スルコトヲ得國民政府カ公平ト認め又ハ變更ノ爲ニ仲裁會ニ還付シ仲裁會カ復審シテ爲シタル決定ハ各關係者之ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

第七條 雇主傭工ノ紛糾ニ關シテ仲裁ノ申請ヲナシタルトキハ雙方共ニ罷業又ハ工場閉鎖等ノ直接行動ヲ執ルコトヲ得ス但シ仲裁申請以前ニナシタル罷業又ハ工場閉鎖ハ此限ニアラス

第八條 仲裁ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勞工仲裁會條例

民國十五年八月十六日公布

第一條 勞工仲裁會ハ勞工組織間ノ爭議ヲ解決スルヲ目的トシテ設立ス



第二條 勞工仲裁會ハ政府ヨリ仲裁代表者一人ヲ任命シ關係雙方又ハ數方ヨリ各代表者一人ヲ派シテ共同シテ之ヲ組織ス

第三條 勞工仲裁會ハ左ノ各事項ヲ解決ス

一 工人ノ紛糾

二 工會ノ範圍決定

三 其ノ他ノ紛糾又ハ衝突

第四條 農工廳ハ工人ノ爭議ヲ解決シ能ハサルトキハ二十四時間以内ニ國民政府ニ仲裁會ノ設立ヲ申請スヘシ

第五條 工人ノ爭議ハ必ス仲裁會ニ於テ解決シ如何ナル時ト雖モ各方トモ衆ヲ聚メ武器ヲ携ヘテ鬭争シ又ハ警律ニ違反シ又ハ公安ヲ危害スル行動アルヲ得ス

第六條 仲裁會ハ爭議又ハ紛糾ヲ解決スルニ當リ左記ノ責任ヲ負フコトヲ要ス

一 爭議原因ノ調査

二 爭議ニ關スル各工會ノ相互關係調査

三 爭議又ハ紛糾ニ關スル各事項ノ調査

四 各關係工會ノ要求條件ノ曲直研究

上記各項ハ必ス最短時間ニ調査ヲ終了シ然ル後公平ナル解決ヲナスヘシ

第七條 仲裁會ノ裁決ニ對シ一方又ハ各方カ不満足ナルトキハ國民政府ニ上訴スルコトヲ得國民政府カ公平ナリト認メ又ハ修改シタル判決ハ之ヲ最後ノ判決トシ各方之ヲ遵守スルコトヲ要ス

第八條 兩工會カ爭議ヲ發生シタルトキハ双方ノ行動ニヨリ危險ヲ第三者ニ及ホスコトヲ得ス何レノ一方ト雖モ本條ニ違反シテ生シタル總テノ損失ハ其ノ直接ノ責任ニ期ス

第九條 仲裁會ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 勞資爭議處理法

民國十七年六月九日國民政府公布

#### 第一章 總 則

第一條 本法ハ雇主ト勞工團體又ハ勞工三十人以上トカ雇傭條件ノ維持又ハ變更ニ關シ爭議ヲ發生シタル時之ヲ適用ス

第二條 本法ニ稱スル所ノ行政官署トハ特別ニ規定アルモノヲ除クノ外特別市ニ在リテハ特別市政府、縣ニ在リテハ縣政府、普通市ニ在リテハ普通市政府トス

特別市ハ法律ニ依リテ中央政府ノ市行政ニ直隸スル區域ヲ謂ヒ普通市ハ法律ニ依リテ省政府ニ直隸スル市行政區



域ヲ謂フ

第三條 行政官署ハ勞資爭議發生ノ時爭議當事者ノ一方又ハ雙方ノ申請ヲ經調解委員會ヲ召集シテ之ヲ調解スヘシ  
當事者ノ申請ナキ時ト雖モ行政官署カ之ヲ調解ニ付スルノ必要アリト認メタル時亦同シ

調解委員會ノ決定ハ當事者雙方ノ同意ヲ經ルニ非サレハ拘束力ヲ發生セス其ノ雙方ノ同意表示ヲ經タル者ハ爭議  
當事者間ノ勞働契約ト同等ノ効力アルモノトス

前項ノ勞働契約ト同等ノ効力ヲ有スル調解ノ決定ハ存續期間ヲ定メタルモノハ適法ナル解約ノ外當事者ノ何レノ  
一方ヨリモ該期間内ニ於テ該決定變更ノ要求ヲ提出スルコトヲ得ス

第四條 左記各事業ニ勞資爭議ヲ發生シ其ノ事件カ調解ヲ經テ解決セサル場合ハ仲裁委員會ノ仲裁ニ付ス

一 軍事機關ノ直接經營スル軍需品製造業

二 公衆ノ生活必需品ヲ供給スル水道、電燈、瓦斯事業

三 公衆ノ使用ニ供スル郵務、電報、電話、鐵路、電車、航運及ヒ公用自動車業

第五條 前條以外ノ勞資爭議事件ニシテ調解ニヨリテ解決セサルモノハ爭議當事者雙方ノ申請ヲ經テ仲裁委員會ノ  
仲裁ニ付ス但シ行政官署ハ爭議ノ情勢カ重大ニシテ一箇月以上ニ及ヒテ解決セス仲裁ニ付スルノ必要アリト認メ  
タル時ハ當事者ノ申請ナキト雖モ該爭議ヲ仲裁委員會ノ仲裁ニ付スルコトヲ得

第六條 勞資爭議事件ノ未タ調解ノ順序ヲ經サルモノハ仲裁ニ付スルヲ得ス但シ爭議當事者雙方カ直チニ仲裁ニ付

スルコトヲ申請シタル時ハ此限ニ在ラス

第七條 爭議當事者ハ仲裁委員會ノ裁決ニ對シ不服ヲ聲明スルコトヲ得ス

前項ノ裁決ハ爭議當事者間ノ勞働契約ト同一ノ効力アルモノトス

前項ノ當事者間ノ勞働契約ト同等ノ効力ヲ有スル仲裁裁決カ其ノ存續期間ヲ定メタルトキハ適法ノ解約ノ外當事  
者ノ何レノ一方ヨリモ該期間内ニ該裁決變更ノ要求ヲ提出スルコトヲ得ス

## 第二章 勞資爭議處理ノ機關

### 第一節 調解機關

第八條 勞資爭議ノ調解ハ調解委員會之ヲ處理ス

第九條 調解委員會ニ委員五人乃至七人ヲ置キ左記代表者ヲ以テ之ヲ組織ス

一 行政官署ノ派遣セル代表者一人乃至三人

二 爭議當事者雙方ノ代表者二人

前項第一款ノ代表者ハ行政官署ノ職員ヲ以テ限リトス

第十條 勞資爭議第三條第一項ノ規定ニ依リ調解ニ付スルトキハ爭議當事者ハ行政官署ノ通知ニ接シタル日ヨリ三  
日以内ニ各自代表者ヲ選定シ並ニ代表者ノ姓名住所ヲ届出ツヘシ

行政官署カ必要ト認メタルトキハ前項ノ期限ヲ酌量延長スルコトヲ得前項ノ期限ヲ超ユルモ其ノ代表者ノ姓名住



所ヲ届出テサルトキハ行政官ハ職權ニ依リ代ツテ之ヲ指定スルコトヲ得

第十一條 調解委員會委員ノ人選決定後行政官署ハ速ニ委員會ヲ開會シ並ニ行政官署ノ任命セル代表者ヲ以テ主席トナスヘシ但シ第十三條第三項ニ規定シタル調解委員會ハ工商部ノ任命シタル代表ヲ以テ主席ト爲スヘシ  
調解委員會ノ委員カ會議ニ出席スルコトヲ拒絕シ會議ヲ進行スルコト能ハサルトキハ既ニ調解ノ順序ヲ經テ未タ解決セサルモノト見做ス

第十二條 調解委員會ノ主席ハ各該官署ノ職員ヲ出席セシメテ記録、編案、擬稿及ヒ其ノ他一切ノ庶務ヲ辦理セシムルコトヲ得

第十三條 同一勞働爭議事件ニシテ之ヲ管轄スル行政官署カ二箇以上アルトキハ各該行政官署カ同一省區ニ在ル場合ハ第九條第一項第一款ノ行政官署ハ省政府ヨリ之ヲ指定シ必要アルトキハ第九條第一項第一款ノ代表者ハ該省政府ヨリ任命スルコトヲ得

同一勞資爭議事件カ同一省區ニ在ラサル場合ハ第九條第一項第一款ノ行政官署ハ工商部ヨリ之ヲ指定ス  
前項ノ場合工商部カ必要ト認メタルトキハ第九條第一項第一款ノ代表者ハ該部ヨリ任命スルコトヲ得

第二節 仲裁機關

第十四條 勞資爭議ノ仲裁ハ仲裁委員會ニ於テ之ヲ處理ス

第十五條 仲裁委員會ニ委員五人ヲ置キ左記ノ人員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 省政府（又ハ特別市政府）ノ代表者一人

二 省黨部（又ハ特別市黨部）ノ代表者一人

三 地方法院々長又ハ其ノ他ノ代表者一人

四 爭議ト直接ノ利害關係ナキ勞働者及ヒ資本家ノ代表者各一人

第十六條 省政府ハ其ノ所轄ノ省區内ニ於テ特別市政府ハ其ノ所轄ノ市區内ニ於テ毎年六月勞工團體及ヒ雇主團體ニ命シ各仲裁委員ノ適任者ト認ムルモノ十五人乃至三十人ノ名簿ヲ各該行政官署ニ提出シテ認可ヲ得ヘシ仲裁事件アルトキハ前條第一項第四款ノ代表者ハ各許行政官署ヨリ右名簿ニ就キ爭議ト直接ノ利害關係ナキ者ヲ指定シテ任命ス

前項ノ規定ニ依リ認可ヲ得タル仲裁委員名簿ハ省政府又ハ特別政府ヨリ工商部ニ提出スヘシ

第十七條 調解委員會委員トナリタル者ハ同一事件ノ仲裁委員トナルコトヲ得ス

第十八條 仲裁委員會ハ省政府之ヲ召集シ省政府代表ヲ以テ主席トシ特別市ニ在リテハ特別市政府之ヲ召集シ特別市政府代表者ヲ主席トス但シ第二十條第二項ニ規定スル仲裁委員會ハ工商部ノ任命シタル代表者ヲ以テ主席トス  
第十九條 仲裁委員會ノ主席ハ其ノ所屬官署又ハ其ノ所在地々方法院ノ職員ニ命シテ記録、編案、擬稿其ノ他一切ノ庶務ヲ辦理セシムルコトヲ得

第二十條 同一勞資爭議事件ノ範圍カ一省又ハ一特別市ニ限ラレサル場合ハ第十五條第一款ノ省政府又ハ特別市政



府ハ工商部之ヲ指定ス

前項ノ場合工商部カ必要ト認ムルトキハ第十五條第一款ノ代表者ハ該部ヨリ任命シ第二款ノ代表者ハ中央黨部ヨリ任命シ同條第四款ノ代表者ハ關係アル各省市ノ仲裁委員會ニ就キ工商部之ヲ指定ス

第三章 勞資爭議處理ノ程序

第一節 調解ノ程序

第二十一條 爭議當事者カ調解ヲ申請スルトキハ行政官署ニ對シ調解申請書ヲ提出スヘシ

第二十二條 調解申請書ニハ左記ノ各事項ヲ記載スヘシ

一 當事者ノ姓名、職業、住所又ハ商號、工廠名、團體タル場合ハ其ノ名稱及ヒ事務所々在地

二 爭議事件ニ關係アル勞働者人數

三 爭議ノ要點

第二十三條 爭議當事者ノ申請ヲ經スシテ行政官署ヨリ爭議ヲ調解ニ付シタル時ハ該行政官署ハ書面ヲ以テ調解事項ヲ雙方當事者ニ通知スルコトヲ要ス

第二十四條 調解委員會ハ召集後二日後以內ニ左記各事項ノ調査ヲ開始スヘシ

一 爭議事件ノ内容

二 爭議當事者ノ提出シタル書狀及ヒ其ノ他ノ關係文件

三 爭議當事雙方ノ現在狀況

四 其ノ他ノ調査スヘキ事項

調査期間ハ特別ノ事情アルニ非サレハ七日ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十五條 調解委員會ハ調査ノ爲證人ヲ召喚シ又ハ關係人ニ命シテ委員會ニ出席シテ説明ヲ爲サシメ又ハ説明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十六條 調解委員會ハ關係工廠又ハ商店ニ對シテ調査ヲ爲シ又ハ質問ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 調解委員會ハ調査ニ依ツテ得タル秘密事項ヲ漏洩スルコトヲ得ス

第二十八條 調解委員會ハ調査終了後二日以内ニ調解ノ決定ヲ爲スヘシ但シ特別ノ事情アルトキ又ハ爭議當事者雙方カ延期ニ同意シタルトキハ此限リニ在ラス

第二十九條 調解委員會ノ決議ハ全體委員ノ合議ヲ以テ之ヲ行ヒ決テ多數ニ取ル調解委員會ハ右決定後二日以内ニ決定書ヲ作成シテ雙方當事者ニ送達シ並ニ管轄行政官署ニ提出スヘシ

第二節 仲裁 程序

第三十條 爭議當事者雙方カ仲裁ヲ申請スル時ハ行政官署ニ對シテ仲裁申請書ヲ提出スヘシ

前項行政官署カ特別市政府ナル場合ハ仲裁申請書ヲ受理シタル後速ニ仲裁委員會ヲ召集スヘク縣政府又ハ市政府ナル場合ハ仲裁申請書及ヒ關係文書ヲ省政府ニ移送スヘシ



省政府カ前項文書ヲ受理シタルトキハ速ニ省城又ハ爭議事件所在地ニ於テ仲裁委員會ヲ召集スヘシ

第三十一條 爭議當事者カ調解ノ成立セサル結果仲裁ニ付スルコトヲ申請スル時ハ其ノ申請書ニハ左記各事項ヲ記載スヘシ

- 一 當事者ノ姓名、職業、住所又ハ商號、工廠名、團體ナル場合ハ其ノ名稱及ヒ事務所々在地
- 二 原決定及ヒ原決定ニ對スル不同意ノ陳述
- 三 不同意ノ理由
- 四 原決定ニ對シ如何ニ廢棄又ハ變更ヲ求ムルカノ説明

第三十二條 爭議當事者カ直チニ仲裁ニ付スルコトヲ申請スルトキハ其ノ申請書ハ第二十二條所列ノ事項ヲ記載ス

ヘシ

第三十三條 第二十三條ヨリ第二十九條ニ至ル規定ハ仲裁程序ニ之ヲ準用ス

第三十四條 爭議當事者ハ仲裁程序ノ如何ナル程度ニ在ルヲ問ハス均シク和解ヲ成立セシムルコトヲ得但シ和解條件ヲ仲裁委員會ニ報告スルヲ要ス

第四章 爭議當事者ノ行爲ノ制限

第三十五條 第四條ニ列記スル各事業ノ雇主又ハ労働者ハ如何ナル勞資爭議ノ爲ナルヲ問ハス罷工又ハ休業ヲ爲スコトヲ得ス

其ノ他ノ工商業ノ雇主又ハ労働者ハ調解又ハ仲裁期間中ハ罷工又ハ休業ヲ開始スルコトヲ得ス如何ナル工商業ノ雇主モ調解又ハ仲裁期間内ニ於テ労働者ヲ解雇スルコトヲ得ス調解又ハ仲裁程序開始ノ期ハ調解委員會又ハ仲裁委員會ノ召集ヲ通知シタル第一日ヨリ起算ス

第三十六條 労働者又ハ労働團體ハ左記ノ行爲アルコトヲ得ス

- 一 商店又ハ工廠ノ封鎖
- 二 商店工廠ノ貨物器具ノ奪取又ハ毀損
- 三 他人ノ罷工強迫

第三十七條 罷工期間内ノ賃銀支給問題ハ調解委員會又ハ仲裁委員會ニ於テ爭議事件ト共ニ決定又ハ裁決ス

第五章 罰則

第三十八條 爭議當事者カ第三條第二項、第七條第二項ニ定ムル労働契約ト同等ノ效力ヲ有スル決定又ハ裁決ヲ履行セサル場合ハ二百元以下ノ罰金又ハ四十日以下ノ拘役ニ處ス

前項ノ場合爭議當事者ハ別ニ民法法規ニ依リ法廷ニ對シ強制執行ヲ請求スルコトヲ得

第三十九條 爭議當事者カ第三十五條及ヒ第三十六條ノ規定ニ違反シタル時ハ行政官署及ヒ調解委員會又ハ仲裁委員會ハ隨時之ヲ制止スルコトヲ得制止ニ服セサル者ノ處罰ハ前條ト同シ其ノ行爲カ刑事上ノ犯罪ヲ構成スルトキハ刑法ニ依ツテ處斷ス



第四十條 左記行爲ノ一アル者ハ百元以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十五條ノ規定ニ違反シ故ナクシテ調解委員會ニ出頭セス又ハ説明書ヲ提出セサル者

二 第二十七條ノ規定ニ違反シタル者

前項第二款ノ場合刑法上ノ犯罪ヲ構成スルトキハ刑法ニ依ツテ處斷ス

第四十一條 左記行爲ノ一アル者ハ百元以下ノ罰金ニ處ス但シ證人カ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ刑法ノ定ムル偽

證罪ノ規定ニ依ツテ處罰ス

一 第二十五條ニ定ムル場合ニ於テ虛偽ノ説明ヲ爲シタル者

二 第二十六條ニ定ムル場合ニ於テ故ナク調査及ヒ之ニ對スル回答ヲ拒絕シ又ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第四十二條 本章各條ニ定ムル處罰スヘキ行爲ニ對シ行政官署及ヒ調解委員會又ハ仲裁委員會ハ事由ヲ記述シテ所

轄法院ニ移交審理セシムルコトヲ得

此場合所轄法院ハ特別ノ事情アルトキヲ除キ文書受領ノ後二十日以内ニ判決ヲ宣告スルヲ要ス

### 第六章 附 則

第四十三條 第十六條ニ定ムル仲裁委員ノ第一期名簿ハ本法施行後二箇月以内ニ各該行政官署ニ於テ所定ノ程序ニ

從ヒ之ヲ作成スルヲ要ス

第四十四條 本法施行後ハ從來ニ於ケル中央及ヒ地方ノ勞資爭議ニ關スル一切ノ法令ハ之ヲ廢止ス

第四十五條 省政府又ハ特別市政府ハ必要ノ時ニ於テ本法施行細則ヲ起草シ國民政府ノ査定ヲ申請スルコトヲ得

第四十六條 本法ハ蒙古、西藏及ヒ青海ノ各特別區ニ之ヲ準用ス

前項區域ノ本法施行細則ハ各該區域ノ最高行政官署ニ於テ前項ノ程序ニ依リ別ニ之ヲ定ム

第四十七條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 第三節 度量衡關係法令

#### 工商部全國度量衡局組織條例

民國十八年二月十六日公布

第一條 工商部全國度量衡局ハ全國度量衡事宜ヲ掌理劃一ス

第二條 全國度量衡局ニ三科ヲ設ク

一 總務科

二 製造科

三 檢定科

第二條 總務科ノ職掌左ノ如シ

### 第六章 産業關係法令



- 一 度量衡新制度ノ實施ニ關スル事項
- 二 度量衡營業ノ許可ニ關スル事項
- 三 文書、庶務、會計ニ關スル事項
- 四 其ノ他ノ各科ニ屬セサル一切ノ事項

第四條 製造科ノ職掌左ノ如シ

- 一 標準器、副原器製造ノ工務ニ關スル事項
- 二 度量衡製造及ヒ修理ニ關スル事項
- 三 度量衡製造及ヒ修理ノ指導ニ關スル事項

第五條 檢定科ノ職掌左ノ如シ

- 一 標準器及ヒ副原器ノ檢定検査及ヒ刻印ニ監察ニ關スル事項
- 二 各省區各特別市及ヒ各縣市度量衡檢定ノ監察ニ關スル事項
- 三 全國度量衡檢定人員ノ養成及ヒ訓練ニ關スル事項

第六條 全國度量衡局ハ度量衡製造所ヲ附設シ各種法定度量衡器具ヲ製造ス

第七條 全國度量衡局ニ度量衡檢定人員養成所ヲ附設シ全國度量衡檢定人員ヲ訓練ス

第八條 各省區及ヒ各特別市政府ニハ度量衡檢定所ヲ設置スヘシ並ニ所屬各縣市政府ニ度量衡檢定分所ヲ附設スル

コトヲ得度量衡檢定所及ヒ分所ノ規定ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 全國度量衡局ニ局長一人ヲ置キ工商部長ノ命ヲ承ケテ全局ノ事務ヲ總理セシム

第十條 全國度量衡局ニ科長三人ヲ置キ局長ノ命ヲ承ケテ各科ノ事務ヲ分掌セシム

第十一條 度量衡製造所ニ所長一人ヲ置キ製造科科长之ヲ兼任セシム

度量衡製造規程別ニ之ヲ定ム

第十二條 度量衡檢定人員養成所ニ所長一人ヲ置キ檢定科科长之ヲ兼任ス

度量衡檢定人員養成所規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 全國度量衡局及ヒ附屬各所ノ技術員、檢定員、事務員及ヒ其ノ他雇用人員ノ數ハ職務ノ繁簡ニ依リ局長

ニ於テ擬定シ工商部部长ニ査定ヲ申請ス

第十四條 全國度量衡局ハ期ヲ分チ員ヲ派シテ各省各特別市及ヒ各縣市ニ至リテ度量衡狀況ヲ視察セシムルコトヲ

要ス

第十五條 全國度量衡局ハ毎月工作狀況及ヒ收支ノ數ヲ詳細ニ工商部部长ニ報告シテ審査ニ資スヘシ

第十六條 全國度量衡局事務規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 全國度量衡局ハ全國ノ度量衡カ一定時期ニ劃一シタルトキハ直チニ之ヲ撤廢ス

全國度量衡局撤廢後ハ總テノ全國度量衡事宜ハ工商部ニ於テ部内ニ科ヲ設ケテ之ヲ掌理ス



第十八條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 中華民國度量衡法

民國十八年二月十六日國民政府公布

第一條 中華民國度量衡ハ萬國權度公會ノ制定セル白金『イリヂウム』製ノ公斤公尺（メートル法ノ衡及ヒ度）ノ原器ヲ以テ標準トス

第二條 中華民國度量衡ハ萬國公制ヲ採用シテ標準制ト爲シ並ニ暫ク補制ヲ設ケ之ヲ市用制ト稱ス

第三條 標準制ノ長度ハ公尺（メートル）ヲ以テ單位トナシ重量ハ公斤（キログラム）ヲ以テ單位トシ容量ハ公升（リットル）ヲ以テ單位トス

一公尺ハ公尺原器ノ攝氏寒暖計零度ノ時ニ於ケル首尾兩標點間ノ距離ニ等シク一公斤ハ公斤原器ノ重量ニ等シク一公斤ハ蒸餾水一公斤ノ最高密度七百六十公釐汽壓ノ時ニ於ケル容積ニ等シ此容積ハ常ニ適用シテ一立方公寸トナス

第四條 標準制ノ名稱及ヒ定位法左ノ如シ

長度 公尺ノ千分ノ一ニ等シ（〇・〇〇一公尺）

公分 公尺ノ百分ノ一即チ十公釐ニ等シ（〇・〇一公尺）  
 公寸 公尺ノ十分ノ一即チ十公分ニ等シ（〇・一公尺）  
 公尺 單位十公寸  
 公丈 十公尺ニ等シ（一〇公尺）  
 公引 百公尺即チ公丈ニ等シ（一〇公丈）  
 公里 千公尺即チ十公引ニ等シ（一〇公引）

地積  
 公釐 百分ノ一公畝ニ等シ（〇・〇一公畝）  
 公畝 單位即チ百平方公尺  
 公頃 百公畝ニ等シ

容量  
 公撮 千分ノ一公升ニ等シ（〇・〇〇一公升）  
 公勺 百分ノ一公升即チ十公撮ニ等シ（〇・〇一公升）  
 公合 十分ノ一公升即チ十公勺ニ等シ（〇・一公升）  
 公升 單位即チ一立方公寸



- 公斗 十公升ニ等シ
- 公石 百公升即チ十公斗ニ等シ(一〇〇公升)
- 公乘 千公升即チ十公石ニ等シ(一・〇〇〇公升)

重量

- 公絲 百萬分ノ一公斤ニ等シ(〇・〇〇〇〇〇一公斤)
- 公毫 十萬分ノ一公斤即チ十公絲ニ等シ(〇・〇〇〇〇一公斤)
- 公釐 一萬分ノ一公斤即チ十公毫ニ等シ(〇・〇〇〇一公斤)
- 公分 千分ノ一公斤即チ十公釐ニ等シ(〇・〇〇一公斤)
- 公錢 百分ノ一公斤即チ十公分ニ等シ(〇・〇一公斤)
- 公兩 十分ノ一公斤即チ十公錢ニ等シ(〇・一公斤)
- 公斤 單位即チ十公兩
- 公衡 十公斤ニ等シ(一〇公斤)
- 公擔 百斤即チ十公衡ニ等シ(一〇〇公斤)
- 公噸 千公斤即チ十公擔ニ等シ(一〇〇〇公斤)

第五條 市用制ノ長度ハ公尺ノ三分ノ一ヲ以テ市尺(略シテ尺ト呼フ)トナシ重量ハ公斤ノ二分ノ一ヲ以テ市斤(略

シテ斤ト呼フ)トナシ容量ハ公升ヲ以テ市升(略シテ升ト呼フ)トナシ一斤ヲ分チテ十六兩トシ一千五百尺ヲ一里ト定メ六千平方尺ヲ一畝ト定メ其餘ハ均シク十ヲ以テ進ム

第六條 市用制ノ名稱及ヒ定位法左ノ如シ

長度

- 毫 一萬分ノ一尺ニ等シ(〇・〇〇〇一尺)
- 釐 千分ノ一尺即チ十毫ニ等シ(〇・〇〇一尺)
- 分 百分ノ一尺即チ十釐ニ等シ(〇・〇一尺)
- 寸 十分ノ一尺即チ十分ニ等シ(〇・一尺)
- 尺 單位即チ十寸
- 丈 十尺ニ等シ(一〇尺)
- 引 百尺ニ等シ(一〇〇尺)
- 里 一千五百尺ニ等シ(一五〇〇尺)

地積

- 毫 千分ノ一畝ニ等シ(〇・〇〇一畝)
- 釐 百分ノ一畝ニ等シ(〇・〇一畝)



|     |                              |
|-----|------------------------------|
| 分   | 十分ノ一畝ニ等シ(〇・一畝)               |
| 畝   | 單位即チ六千平方尺                    |
| 頃   | 一百畝ニ等シ                       |
| 容 量 | 萬國公制ト相等シ                     |
| 撮   | 千分ノ一升ニ等シ(〇・〇〇一升)             |
| 勺   | 百分ノ一升即チ十撮ニ等シ(〇・〇一升)          |
| 合   | 十分ノ一升即チ十勺ニ等シ(〇・一升)           |
| 升   | 單位即チ十合                       |
| 斗   | 十升ニ等シ(一〇升)                   |
| 石   | 百升即チ十斗ニ等シ(一〇〇升)              |
| 重 量 |                              |
| 絲   | 百六十萬分ノ一斤ニ等シ(〇・〇〇〇〇〇〇六二五斤)    |
| 毫   | 十六萬分ノ一斤即チ十絲ニ等シ(〇・〇〇〇〇〇〇六二五斤) |
| 釐   | 一萬六千分ノ一斤即チ十毫ニ等シ(〇・〇〇〇〇〇六二五斤) |
| 分   | 一千六百分ノ一斤即チ十釐ニ等シ(〇・〇〇〇六二五斤)   |

|   |                          |
|---|--------------------------|
| 錢 | 百六十分ノ一斤即チ十分ニ等シ(〇・〇〇六二五斤) |
| 兩 | 十六分ノ一斤即チ十錢ニ等シ(〇・〇六二五斤)   |
| 斤 | 單位即チ十六兩                  |
| 擔 | 百斤ニ等シ(一〇〇斤)              |

第七條 中華民國度量衡原器ハ工商部之ヲ保管ス

第八條 工商部ハ原器ニ依リ副原器ヲ製造シ國民政府各院部會各省及ヒ各特別市政府ニ分存ス

第九條 工商部ハ副原器ニ依リ地方標準器ヲ製造シ各省及ヒ各特別市ヲ經テ各縣各市ニ頒發シ地方ニ於ケル檢定又ハ製造ニ用フ

第十條 副原器ハ十年毎ニ一回原器ニ照シテ檢定シ地方標準器ハ五年毎ニ一回副原器ニ照シテ檢定ス

第十一條 度量衡ニ關スル事項ハ私人ノ賣買取引ニ於テ市用制ヲ暫行スルコトヲ得ルヲ除クノ外均シク標準制ヲ用フ

第十二條 度量衡ヲ測一スルタメ工商部ハ全國度量衡局ヲ設立シテ之ヲ掌理セシメ各省及ヒ各特別市ハ度量衡檢定所ヲ設ケ各縣及ヒ各市ハ度量衡檢定分所ヲ設ケテ各檢定事務ヲ處理ス全國度量衡局度量衡檢定所及ヒ分所規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 度量衡原器及ヒ標準器ハ工商部全國度量衡局ニ度量衡製造所ヲ設ケテ之ヲ製造ス



- 度量衡製造所規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十四條 度量衡器具ノ種類、様式、物質公差及ヒ其ノ使用ノ制限ハ工商部々令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十五條 度量衡器具ハ法規ニ依リ檢定シ其ノ印證アルニアラサレハ販賣使用スルコトヲ得ス
- 度量衡檢定規則ハ工商部ニ於テ別ニ之ヲ定ム
- 第十六條 全國ノ公私ニ使用スル度量衡器具ハ總テ檢査ヲ受クルコトヲ要ス
- 度量衡檢査執行規則ハ工商部別ニ之ヲ定ム
- 第十七條 度量衡ノ製造販賣及ヒ修理ヲ以テ業ト爲ス者ハ地方主管機關ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
- 度量衡器具營業條例ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十八條 度量衡器具製造販賣及ヒ修理營業ノ許可ヲ得タル者本法ニ違反スル行爲アルトキハ所管機關ハ其ノ營業ノ取消又ハ停止ヲ爲スコトヲ得
- 第十九條 第十五條又ハ第十八條ノ規定ニ反シ檢定ヲ受ケス又ハ檢査ヲ拒絕スル者ハ三十元以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十條 本法ノ施行細則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二十一條 本法公布後施行期日ハ工商部々令ヲ以テ之ヲ定ム

### 度量衡法施行細則

民國十八年四月十一日部令公布

#### 第一章 製 造

- 第一條 度量衡ノ副原器ハ合金ヲ以テ之ヲ製ス
- 第二條 地方標準器ハ合金又ハ金屬ヲ以テ製造シ尋常用器ハ特種ノモノヲ除キ金屬及ヒ竹木等ヲ以テ之ヲ製造ス
- 第三條 度器ハ分チテ直尺、曲尺、疊尺、卷尺、鍵尺等ノ種類トス
- 第四條 量器ハ分ツテ圓柱形、方柱形、圓錐形、方錐形等ノ種類ト爲ス
- 第五條 衡器ハ分ツテ天秤、臺秤、桿秤等ノ種類ニ分ツ
- 第六條 上皿天秤ハ分ツテ圓柱形、方柱形等ノ種類ニ分ツ
- 桿秤ノ分銅ハ圓錐形、方錐形等ノ種類ニ分ツ
- 第七條 度器ノ分度ハ縮尺ヲ除クノ外度量衡法第四條第六條ノ長度名稱ノ一倍、二倍、五倍並ニ其ノ倍數ノ十分ノ一、百分ノ一、千分ノ一、百分ノ一、千分ノ一トシテ之ヲ製スヘシ
- 第八條 量器ノ分量ハ度量衡法第四條第六條名稱ノ一倍、二倍、五倍並ニ其ノ倍數ノ十分ノ一、百分ノ一、千分ノ一トシテ之ヲ製スヘシ



第九條 分銅及ヒ衡桿ノ分度ニ於ケル重量ハ度量衡法第四條第六條ノ重量名稱ノ一倍、二倍、五倍並ニ其ノ倍數ノ十倍百倍、千倍及ヒ十分ノ一、百分ノ一、千分ノ一トシテ之ヲ製スヘシ但シ第六條ノ斤ノ名稱ヲ用ウル場合ハ其ノ四分ノ一、八分ノ一、十六分ノ一トシテ之ヲ製スルコトヲ得

第十條 度量器具ノ記名ハ度量衡法第四條、第六條ノ度量衡名稱ニ依リ之ヲ記スヘシ但シ標準副名稱ハ歐文縮寫字母ニ依ツテ之ヲ記スコトヲ得

第十一條 度量器具ノ分度及ヒ記名ハ明瞭ニシテ磨滅シ易カラサルコトヲ要ス

第十二條 度量衡器具ニ用ウル材料ハ損傷伸縮シ易カラサルコトヲ要シ木質ナルトキハ完全ニ乾燥スヘク金屬ノ化學的變化ヲ起シ易キモノハ油漆類ヲ以テ之ヲ塗ルコトヲ要ス

第十三條 度量衡器具ニハ必ス適要ノ地位ヲ留メテ検査ノ圖印ヲ刻スルニ便シ刻印シ易カラサル物質ハ刻印ニ便ナル金屬ヲ附スヘシ  
前項ノ附屬スル金屬ハ器具ノ本體ト密合シテ脫離シ易カラサルコトヲ要ス

第十四條 竹木製折疊尺ノ每節ノ長サ二公寸以下ナルモノハ其ノ厚サ一・五公釐以上ナルコトヲ要シ一市尺以下ナルモノハ其ノ厚サ二公釐以上ナルコトヲ要ス

第十五條 麻布卷尺ノ全長十五市尺又ハ五公尺以上ナルモノハ其ノ十五市尺又ハ五公尺ノ距離毎ニ重量十八公兩ノ張力ヲ加フルモ其ノ伸張ノ長サ一公分ヲ過クルコトヲ得ス

第十六條 樹ノ金屬製ニシテ圓柱形ナルモノハ其ノ内徑ト深サト相等シキカ又ハ深サ内徑ニ倍スルコトヲ要ス但シ一公釐半ヲ増減スルコトヲ得

第十七條 樹ノ木質製ニシテ圓柱形ナルモノハ其ノ内徑ト深サト相等シキカ又ハ深サ内徑ニ倍スルコトヲ要ス但シ三公釐ヲ増減スルコトヲ得

第十八條 樹ノ木質製ニシテ方柱形ナルモノハ其ノ内方邊ノ長サカ深サノ二倍ニ過クルコトヲ要ス但シ三公釐ヲ増減スルコトヲ得

第十九條 樹ノ木質製ニシテ方錐形ナルモノハ其ノ内方邊ノ長サカ深サノ二倍ニ過クルコトヲ得ス但シ四公釐ヲ過クルコトヲ得ス

第二十條 木質量器ノ一升以上ナルモノハ口邊及ヒ四周ニ適當ノ方法ヲ以テ金屬ヲ附スヘシ

第二十一條 分度ヲ有スル玻璃、燒物ノ量器ハ耐熱物質ヲ用ウルコトヲ要ス

第二十二條 玻璃、燒物量器ノ最高分度ト其ノ底トノ距離ハ其ノ内徑ヨリ小ナルコトヲ得ス

第二十三條 衡器ノ刃ト刃ノ觸ル、部分トハ適當ニ堅硬平滑ナルコトヲ要シ其ノ材料ハ鋼、鐵、玻璃、玉石ヲ以テ限リト爲ス

第二十四條 衡器ノ感量ハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス  
天 秤 秤量ノ千分ノ一以下トス



臺秤 秤量ノ五百分ノ一以下トス  
 桿秤 秤量ノ二百分ノ一以下トス  
 第二十五條 衡器ノ分度ニ於ケル重量ハ感量ヨリ小ナルコトヲ得ス  
 第二十六條 天秤ハ適當ノ地位ニ其ノ秤量ト感量トヲ臺秤、桿秤ハ適當ノ地位ニ其ノ秤量ヲ表明スヘシ  
 第二十七條 衡器ヲ試験スル法ハ先ツ其ノ秤量ヲ驗シ更ニ感量又ハ最小分度ノ重量ヲ以テ増減スヘシ其ノ得ル所ノ結果ハ左記ノ定限ニ合致スルコトヲ要ス

- 一 天秤及ヒ臺秤ノ標針アルモノハ其ノ標針ノ移動一・五公釐以上ナルコト
- 二 臺秤ハ其ノ桿ノ末端ノ昇降三公釐以上ナルコト
- 三 桿秤ハ其ノ桿ノ末端ノ昇降支點ヨリ末端ニ至ル距離ノ三十分ノ一以上ナルコト
- 第二十八條 桿秤上ノ支點、重點ノ部分ハ適當ノ硬度ヲ有スル金屬ヲ用ウヘシ
- 第二十九條 桿秤ノ紐ハ金屬ヲ使用スヘシ但シ三十市斤以下ナルモノハ革、生絲、麻糸、木綿糸等ノ物質ヲ使用スヘシ但シ其ノ感量ハ秤量ノ五十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第三十條 秤紐ノ數ハ二箇ヲ過クルヲ得ス二箇ノ秤紐ヲ有スルモノハ秤桿ノ上下ニ分置シ其ノ懸鈎又ハ懸盤ハ反對方向ニ移動スル構造ヲ具有スヘシ
- 第三十一條 分銅ノ鑄鐵ヲ以テ製スルモノハ適當ノ位置ニ孔ヲ留メ刻印ニ便ナル金屬ヲ填嵌シ並ニ其ノ重量ヲ加減スヘシ

スヘシ  
 第三十二條 木桿秤ノ分銅ハ秤量ノ三十分ノ一ヨリ小ナルコトヲ得ス  
 第三十三條 桿秤ノ全長度ハ公尺ノ四分ノ一ヨリ短カカラス一公尺半ヨリ長カラサルコトヲ要ス  
 第三十四條 度量衡器具ノ公差左ノ如シ

| 名稱     | 類                    | 別         | 公        |
|--------|----------------------|-----------|----------|
| 直尺     | 分度一公釐及ヒ二分ノ一公釐ヨリ大ナルモノ | 長度ノ二千分ノ一  |          |
| 曲尺     | 分度一公釐及ヒ縮尺ナルモノ        | 長度ノ四千分ノ一  |          |
| 疊尺     | 十公尺以上                | 長度二千分ノ三   |          |
| 鍵尺     | 鋼鐵製ニ非サルモノ            | 長度ノ二千分ノ三  |          |
| 卷尺     | 鋼鐵製ナルモノ              | 長度ノ一萬分ノ三  |          |
| 二 量器公差 | 名稱                   | 類         | 別        |
|        |                      | 二公勺以下ナルモノ | 容量ノ五十分ノ一 |



| 全量           |            | 分度ヲ有スル分量   |            |
|--------------|------------|------------|------------|
| 五公勺乃至一公合ナルモノ | 容量ノ百分ノ一    | 二公撮以下ナルモノ  | 容量ノ二百五十分ノ一 |
| 二公合乃至一公升ナルモノ | 容量ノ百五十分ノ一  | 二公尺以下ナルモノ  | 容量ノ二十分ノ一   |
| 二公升以上ナルモノ    | 容量ノ二百五十分ノ一 | 一公合以下ナルモノ  | 容量ノ百分ノ一    |
|              | 容量ノ百五十分ノ一  | 一公合ヨリ大ナルモノ |            |

| 三分銅ノ公差 |        | 重量    |        |
|--------|--------|-------|--------|
| 五公絲以下  | 十分ノ一公絲 | 五公毫以下 | 十分ノ二公絲 |
| 二公毫以下  | 十分ノ二公絲 | 五公毫   | 十分ノ三公絲 |
|        |        | 一公釐   | 十分ノ四公絲 |
|        |        | 二公釐   | 十分ノ六公絲 |
|        |        | 五公釐   | 一公絲    |

重量一公分以上ノ分銅ハ三個ヲ一組トナシ其ノ重量各十倍ヲ以テ進ミ其ノ公差ハ各五倍ヲ以テ進ム市用器ノ公差ハ前表ノ比例ニ準シテ計算ス

第二章 檢定

- 第三十五條 第一條乃至第三十四條ノ度量衡器具ハ均シク合格ノ度量衡器具トス
- 第三十六條 各地方ニ於テハ度量衡法公布施行後一定期限ヲ經過シタルトキハ度量衡法及ヒ本細則ニ適合セサル度量衡器具ヲ製造又ハ販賣スルコトヲ得ス
- 前項ノ期限ハ全國度量衡局之ヲ擬定シ工商部ノ公布施行ヲ申請スルモノトス
- 第三十七條 各種度量衡器具ハ製造後全國度量衡局又ハ地方度量衡檢定所又ハ分所ノ檢定ヲ受クルコトヲ要ス
- 第三十八條 度量衡器具ノ檢定ヲ受クルトキハ申請書ヲ添附シテ全國度量衡局又ハ地方度量衡檢定所又ハ分所ニ送リテ檢定ヲ申請スヘシ
- 前項申請書ノ書式ハ全國度量衡局之ヲ定ム
- 第三十九條 全國度量衡局又ハ地方度量衡檢定所又ハ分所カ前條ノ申請書ヲ接受シタルトキハ度量衡法及ヒ本細則



ノ規定ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第四十條 度量衡器檢定後合格ト認メタルモノハ檢定局所ノ圖印ヲ刻シ又ハ證書ヲ下付スヘシ

第四十一條 度量器具ノ檢定ヲ受クルトキハ檢定費ヲ納入スヘシ其ノ額ハ全國度量衡局ニ於テ之ヲ擬定シ工商部ニ申請シ部令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 檢定ニ用ウル圖印又ハ證書ノ式樣ハ全國度量衡局之ヲ定ム

### 第三章 檢 査

第四十三條 檢定合格ノ度量衡器具ハ定期又ハ臨時ニ全國度量衡局又ハ地方度量衡檢定所又ハ分所ノ檢査ヲ受クルモノトス

第四十四條 檢査ノ時原檢定ト符合セサル度量衡器具ヲ發見シタルトキハ原檢定ノ圖印又ハ證書ヲ破棄シ又ハ之ヲ取消スヘシ

第四十五條 前條ノ度量衡器具ハ一定期限内ニ完全ニ修理セシメ再檢査ヲ申請セシムルコトヲ得

第四十六條 再檢査後合格ト認メタルモノハ更ニ圖印ヲ刻シ又ハ證書ヲ下付シテ其ノ使用ヲ許可ス

第四十七條 檢査ノ時修理ニ堪ヘスト認メ又ハ再檢査ノ時仍不合格ナル器具ハ之ヲ破毀スヘシ

第四十八條 檢査ノ時未檢定ノ度量衡器具ヲ販賣使用スル者ヲ發見シタルトキハ度量衡法第十九條ノ規定ニ依リテ之ヲ處罰スヘシ

第四十九條 檢査ノ時用ウル圖印ハ全國度量衡局之ヲ定メ並ニ一定期限内ニ一回變更ス

前項變更ノ期限ハ全國度量衡局之ヲ定ム

第五十條 檢査ノ時用ウル檢査器具ノ設計圖ハ全國度量衡局ニ於テ擬定頒發ス

前項ノ檢査器具ハ設計圖ニ依リテ製作シタル後全國度量衡局又ハ地方度量衡檢定所ニ於テ之ヲ校準スルモノトス

第五十一條 度量衡檢査執行規則ハ全國度量衡局ニ於テ擬定シテ工商部ニ申請シ工商部ハ內政部ト會同査定シテ之ヲ公布ス

第五十二條 各省及ヒ各特別市度量衡檢査執行規則ハ各地方ノ特別情況ニ依リ該地方度量衡檢定所ニ於テ擬定シ全國度量衡局ノ査定ヲ申請ス

### 第四章 推 行

第五十三條 度量衡法施行前ヨリ使用セル度量衡器具ニシテ其ノ種類名稱カ度量衡法第四條第六條ニ合致スルモノハ度量衡法施行ノ日ヨリ之ヲ使用スルコトヲ得但シ全國度量衡局又ハ地方度量衡檢定所又ハ分所之ヲ檢査シテ特別圖印ヲ押捺シ並ニ定期又ハ臨時檢査ヲナスコトヲ要ス

前項ノ特別圖印ハ全國度量衡局之ヲ定ム

第五十四條 度量衡法施行前ヨリ使用セル度量衡器具ニシテ度量衡法ト合致セサルモノハ度量衡法施行ノ日ヨリ一定期間内之ヲ使用スルコトヲ得但シ定期又ハ臨時檢査ヲ受クルコトヲ要ス











國民政府の産業政策

〇・三市尺

三市尺

三〇市尺

三〇〇市尺

三〇〇〇市尺

地積

市制用

〇・〇〇六六七公畝

〇・〇六六七公畝

〇・六六七公畝

六・六七(即ち三分ノ二〇)公畝

六六六・六六七公畝

標準制

〇・〇〇一五市畝

〇・〇一五(即ち十分ノ三)市畝

公畝

容量

市制用

一五市畝

〇・〇〇一公升

〇・一公升

一公升

一〇公升

一〇〇公升

標準制

〇・〇〇一市升

〇・〇一市升

〇・一市升

一市升

一〇市升

一〇〇市升

第六章 産業關係法令



公 秉 一〇〇〇市升

重量

市用制

〇・〇〇〇〇〇三一二五公斤

〇・〇〇〇〇三一二五公斤

〇・〇〇〇三一二五公斤

〇・〇〇三一二五公斤

〇・〇三一二五公斤

〇・三一二五(即チ二分ノ一)公斤

五〇公斤

標準制

公 絲 〇・〇〇〇〇〇二市斤

公 毫 〇・〇〇〇〇二市斤

公 釐 〇・〇〇〇二市斤

公 分 〇・〇〇二市斤

第六十四條 本細則ノ施行期日ハ工商部ニ於テ部令ヲ以テ之ヲ定ム

度量衡器具營業規程

民國十八年四月十七日工商部部令公布

第一條 度量器具ノ製造ヲ以テ營業ト爲ス者ハ地方主管機關ニ許可證ノ下付ヲ申請シ該機關ヨリ之ヲ全國度量衡局

ニ轉請シ該局ヨリ之ヲ工商部ニ報告スルモノトス

民用度量衡器具ノ販賣又ハ修理ヲ以テ營業トナス者ハ地方主管機關ニ許可證ノ下付ヲ申請シ該機關ヨリ之ヲ全國

度量衡局ニ報告スヘシ

前項ノ許可證ハ全國度量衡局ヨリ期ニ先チ地方主管機關ニ頒發シテ用ニ備フルモノトス



第二條 度量衡器具ノ營業許可期限ハ許可證下付ノ日ヨリ十箇年トス期限満了後營業繼續ヲ希望スル者ハ再ヒ規定ニ依リテ申請ヲナスヘシ

第三條 申請人ハ左記各款ニ依リ各別ニ許可費ヲ納入スヘシ

- 一 度量衡器具ヲ製造スル者 三十元
- 二 度量衡器具ヲ修理スル者 十元
- 三 度量衡器具ヲ販賣スル者 二十元

第四條 製造營業ノ許可證ヲ受領シタル者ハ左記各款ニ依リ各別ニ保證金ヲ納入シタル後方メテ營業ヲ開始スルコトヲ得

- 一 度量器ヲ製造スル者 三十元
- 二 量器ヲ製造スル者 三十元
- 三 衡器ヲ製造スル者 五十元

第五條 度量衡器具ノ製造ヲ兼營スル者ハ左記各款ニ依リ保證金ヲ納入スヘシ

- 一 度量器及衡器ヲ製造スル者 百元
- 二 度量器及ヒ衡器ヲ製造スル者 七十元
- 三 量器及ヒ衡器ヲ製造スル者 七十元

四 度量器及ヒ量器ヲ製造スル者 五十元

第六條 保證金ハ第二條ノ許可期限到來シ又ハ期限到來前自ラ營業ヲ停止シタル時ハ之ヲ返還シ並ニ毎年三分ノ利息ヲ付ス

第七條 本規定又ハ度量衡法ノ規定ニ依リ其ノ營業許可ヲ取消シタルトキハ之ヲ沒收ス

第八條 度量衡營業ノ許可證ヲ領有シタル者ハ價ヲ備ヘテ標準器ヲ受領スヘシ

第九條 左記各款ノ事由ノ一ニ該當スル者ハ度量衡營業ノ許可ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 一年以上ノ有期徒刑ヲ受ケ刑期ノ未タ終了セサル者
- 二 破産ノ宣告ヲ受ケタル者
- 三 公權ヲ褫奪セラレタル者
- 四 中華民國刑法第十三章ニ規定スル各罪ヲ犯シテ刑罰ノ宣告ヲ受ケ刑期終了又ハ執行免除ノ日ヨリ一年ヲ經過セサル者
- 五 本規定又ハ度量衡法第十八條ノ規定ニ依リ度量衡營業ノ許可證ヲ受領シ事故ニヨリ營業ノ禁止又ハ停止ノ處

一分ヲ受ケタル後一年ヲ經過セサル者

未成年者又ハ禁治產者カ法定代理人ヲシテ度量衡營業ノ許可ヲ申請セシメタル時其法定代理人カ前項各款ノ一ニ該當スル場合ハ亦前項ノ規定ニ依リ辦理ス



第十條 度量衡營業許可證ヲ受領シタル者左記各款ノ事由ノ一アルトキハ其ノ許可證ハ之ヲ撤消ス

一 度量衡法及ヒ其ノ施行細則ニ違反スル行爲アルトキ

二 一年以上ノ有期徒刑ニ處セラレタルトキ

三 前條第二款又ハ第三款ニ該當スルトキ

四 中華民國刑法等十三章ニ規定スル各罪ヲ犯シテ刑罰ノ宣告ヲ受ケタルトキ

第十一條 許可證ヲ有セスシテ私ニ度量衡ノ製造ヲ營ム者ハ三百元以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 許可證ヲ有セスシテ私ニ度量衡器具ノ販賣又ハ修理ヲ營ムモノハ五十元以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 本規定ノ施行期日ハ工商部令ヲ以テ之ヲ定ム

### 公用度量衡器具頒布規則

民國十八年四月十一日工商部令公布

第一條 政府各機關ノ使用スル度量衡器具ハ工商部ノ頒發スル標準制ヲ以テ準則トス

第二條 度量衡器具ヲ頒布スヘキ機關ハ工商部カ主管各院部會及ヒ各省、各特別市政府ト會同シテ之ヲ定ム

第三條 前條定ムル所ノ各機關ハ全國度量衡局所規定ノ度量衡器具ノ價格ニ照シテ備ヘテ購置スヘシ

第四條 各機關ノ所管事務カ一部分ニ限ラル、モノハ理由ヲ説明シテ度量衡器具ノ種類及ヒ件數ヲ定メ價ヲ備ヘテ

### 受領スヘシ

第五條 各機關ノ度量衡器具ノ檢定及ヒ検査ハ度量衡法及ヒ度量衡法施行細則ノ規定ヲ適用ス

第六條 前項ノ檢定又ハ検査ノ後不合格ト認メタル度量衡器具ハ該機關ヨリ請求書ヲ全國度量衡局ニ送り修繕又ハ取換ヲ求ムルコトヲ得

第七條 本規則ノ施行期日ハ工商部令ヲ以テ之ヲ定ム

### 度量衡檢定規則

民國十八年四月十一日工商部令公布

第一條 政府及ヒ民間製造ノ度量衡器具ハ全國度量衡局又ハ地方檢定所又ハ分所之ヲ檢定ス

第二條 檢定ヲ受クヘキ度量衡器具ハ申請書ヲ添附シテ之ヲ全國度量衡局又ハ地方檢定所又ハ分所ニ送付スヘシ  
前項申請書ノ形式ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 度量衡局又ハ地方檢定所又ハ分所カ申請書ヲ接受シタル時ハ直チニ法規ニ從テ檢定シ又ハ所員ヲシテ檢定器ヲ携帶出張セシメテ之ヲ檢定スヘシ

第四條 度量衡檢定ノ場所ハ乾燥靜穩ノ處ニ設クルコトヲ要ス

第五條 度量衡檢定器具ハ堅牢平坦ノ地面又ハ臺上ニ於テ之ヲ行フヘシ



第六條 檢定器具ハ注意シテ保管シ濕氣溫度ノ劇變及ヒ塵埃ノ汚染ヲ避クヘシ

第七條 度量衡器具ノ檢定ハ左ノ順序ヲ以テ之ヲ行フヘシ

- 一 檢定申請者ノ人名又ハ機關及ヒ其ノ責任者並ニ住所ヲ記載ス
- 二 檢定シタル器具ノ記號、圖印又ハ前ニ檢定ヲ經タル證憑ヲ記載ス
- 三 檢定シタル器具ノ度器、量器又ハ衡器タルコト及ヒ其件數ヲ記載ス
- 四 檢定シタル器具ノ標準制、市用制又ハ兩制併用タルコトヲ記載ス
- 五 檢定シタル器具ノ種類、形狀、材料及ヒ構造樣式ヲ記載ス
- 六 檢定シタル器具ノ分度及ヒ度器ノ長度、量器ノ容量、又ハ衡器ノ秤量ヲ記載ス
- 七 檢定シタル器具ノ公差ヲ記載ス
- 八 檢定シタル年月日及ヒ檢定時ノ溫度ヲ記載ス

第八條 各器具ヲ檢定シテ合格ト認メタルモノハ局所ノ刻印ヲ施シ又ハ證書ヲ下付ス

第九條 度量衡器具ノ檢定ヲ受クルトキハ各別ニ檢定費ヲ納入スヘシ

前項ノ檢定費ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 檢定ヲ受ケタル各器具ハ仍隨時度量衡局又ハ地方檢定所又ハ分所ノ檢査ヲ受クヘシ

第十一條 檢定ノ時不合格トナリタル度量衡器具ハ更ニ一定期間内ニ修理シ再檢査ヲ申請スヘシ

前項ノ期間ハ其ノ都度適宜ニ之ヲ定ム

第十二條 再檢査ニ於テ合格シタル器具ハ刻印ヲ施シ其ノ販賣及ヒ使用ヲ許可スルモノトス

第十三條 檢定ノ時修理ニ堪ヘスト認メラレ再檢査ノ時仍合格セサル度量衡器具ニハ廢棄ノ捺印ヲナシ之ヲ販賣又

ハ使用スルコトヲ許サス違ハサル者ハ其ノ器ヲ破毀シ又ハ沒收ス

第十四條 本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 全國度量衡局度量衡製造所規定

民國十八年四月十一日工商部部令公布

第一條 度量衡製造所ハ各種法定度量衡器具ノ製造事務ヲ管掌ス

第二條 度量衡製造所ニ左ノ二課ヲ設ク

一 業務課

二 工務課

第三條 業務課ノ職掌左ノ如シ

- 一 製造原料ノ購買ニ關スル事項
- 二 製造品ノ發送及ヒ保存ニ關スル事項



三 文書、會計、庶務、編纂、統計等ニ關スル事項

第四條 工務課ノ職掌左ノ如シ

一 材料ノ受入、整理及ヒ一切ノ製造設備ニ關スル事項

二 工務ノ分配、督率、管理ニ關スル事項

三 製造品ノ検査及ヒ整理ニ關スル事項

四 其ノ他ノ技術ニ關スル事項

第五條 度量衡製造所ニ所長一人ヲ置キ全所ノ事務ヲ綜理セシム

第六條 度量衡製造所ニ課長二人、技術員、事務員、書記及ヒ工匠若干人ヲ置キ其ノ員數ハ所長ヨリ全國度量衡局ニ上申シテ之ヲ定ム但シ工商部ニ轉報スルコトヲ要ス

第七條 度量衡製造所ハ毎月作業及ヒ收支ノ詳細ナル報告ヲ全國度量衡局ヲ經由シテ商工部ニ提出スヘシ

第八條 度量衡製造所ハ其ノ他ノ標準器及ヒ科學儀器ヲ兼造スルコトヲ得

第九條 度量衡製造所ハ全國各重要區域ニ設立スルコトヲ得

第十條 度量衡製造所ノ製造スル各種器具ハ工商部度量衡製造所製ノ文字ヲ刻スヘシ

第十一條 度量衡製造所辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十二條 本規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 各省及各特別市度量衡檢定所規定

民國十八年四月十一日公布工商部部令

第一條 各省、各特別市政府ハ工商部全國度量衡局組織條例第八條ノ規定ニ依リ各該區域内ニ度量衡檢定所ヲ設立シ該區域内ノ檢定及ヒ検査並ニ部ノ配付シタル度量衡副原器及ヒ標準器ノ保管事務ヲ管掌ス

第二條 度量衡器具檢定所ニ所長一人、檢定員及ヒ事務員若干人ヲ置ク

第三條 所長ハ該區域ノ工商事業主管機關ノ命令ヲ承ケテ全所ノ事務ヲ總理シ並ニ主任檢定員トナル

第四條 檢定員ハ所長ノ命ヲ承ケ度量衡ヲ檢定シ並ニ標準器ヲ保管シ及ヒ新制度普及ノ宣傳、分所檢定人員ノ訓練等ノ事務ヲ分掌ス

第五條 事務員ハ所長ノ命ヲ承ケ文牘、會計、庶務等ノ事項ヲ分掌ス

第六條 檢定員事務員ノ數ハ所長之ヲ擬定シ該區域ノ工商主管機關ニ申請シテ許可ヲ得並ニ全國度量衡局ニ報告ス

第七條 度量衡檢定所ハ適宜雇員ヲ採用スルコトヲ得

第八條 各省、各特別市度量衡檢定所ハ所屬各縣市ニ度量衡檢定分所ヲ附設シ並ニ其ノ事務ヲ監督スルコトヲ得

第九條 度量衡檢定所ハ毎月該所及ヒ各分所ノ執務狀況及ヒ收支ノ金額ヲ該區域ノ工商業主管機關ニ報告シ並ニ工



商部全國度量衡局ニ報告スヘシ

第十條 度量衡檢定所辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 本規定ハ公布ノ日ヨリ工商部ノ公布シタル全國度量衡劃一程序ニ依リ之ヲ施行ス

### 各縣市度量衡檢定分所規定

民國十八年四月公布工商部部令

第一條 各縣政府及ヒ市政府ハ全國度量衡局組織條例第八條及ヒ各省度量衡檢定所規定第八條ノ規定ニ依リ度量衡檢定分所ヲ附設スルコトヲ得

第二條 度量衡檢定分所ニ主任檢定員一人檢定員若干人ヲ置ク其數ハ該省度量衡檢定所之ヲ擬定シ該省工商業主管機關ニ申請シテ認可ヲ得ルモノトス

第三條 度量衡檢定分所ノ事務ハ主任檢定員ノ兼任トス但シ必要アルトキハ事務員一人ヲ置キテ之ヲ助理セシムルコトヲ得

第四條 度量衡檢定分所ハ毎月執務狀況及ヒ收支ノ金額ヲ縣政府又ハ市政府ヲ經由シテ該省度量衡檢定所ニ報告スヘシ

第五條 本規定ハ公布ノ日ヨリ工商部ノ公布セル全國度量衡劃一程序ニ依リ之ヲ施行ス

### 度量衡器具檢查執行規則

民國十八年四月十三日工商部令公布

第一條 政府各檢關及ヒ民間營業用ノ度量衡器具ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ檢查ヲ實行スヘシ

第二條 度量衡器具ノ檢定ハ毎年一回施行ス但シ必要アルトキハ臨時檢查ヲ施行スルコトヲ得

第三條 檢查ヲ行フヘキ區域及ヒ其ノ期日ハ地方度量衡檢定所又ハ分所ト公安主管機關トカ會同シテ期ニ先チテ布告周知セシムルモノトス

第四條 度量衡器具ノ檢查ヲナストキハ檢查人員警士ヲ帶同シ毎月業務時間内ニ各機關及ヒ各戸ニ赴キテ檢查ス

第五條 各該區域内ノ檢查終了後新タニ設ケラレ又ハ移轉シ來リタル各機關及ヒ各戸ハ公安主管機關ノ通知ニ從ヒ使用スヘキ度量衡器具ニ對シ檢查ノ補行又ハ檢查證ノ查閱ヲ申請スヘシ

第六條 檢查人員ハ檢查ヲ命セラレタル證明書ヲ携帯スヘシ

前項ノ證明書ハ該檢查人員ノ二寸半身寫眞ヲ貼付スヘシ

第七條 度量衡器具ノ檢查ハ費用ヲ徵收セス

第八條 檢查ニ合格シタル度量衡器具ニ對シテハ刻印ヲ施シ又ハ檢查證ヲ下付スヘシ

第九條 檢查ヲ受ケタル度量衡器具ハ地方檢定所又ハ分所ヨリ詳細ニ之ヲ登記スヘシ



第十條 各地方度量衡檢定所又ハ分所ハ毎次ノ檢査狀況及ヒ其ノ結果ヲ度量衡局ニ詳報スヘシ

第十一條 各該區域内ノ既ニ檢査ヲ行ヒタル各廠行店戸ハ檢査ノ刻印ナク又ハ檢査證ヲ下付セサル度量衡器具ヲ使用スルコトヲ得ス

第十二條 檢定又ハ檢査ヲ經テ刻印ヲ有シ又ハ檢査證ヲ下付セラレタル度量器具ノ狂ヒヲ生シタルモノニ對シ地方度量衡檢定所又ハ分所ハ公安主管機關ト會同シテ臨時檢査ヲ行フコトヲ得

第十三條 檢査ニ用ウル所ノ刻印又ハ檢査證書ヲ偽造シ又ハ此種ノ刻印又ハ檢査證ヲ使用シタル者八十元以上百元以下ノ罰金ニ處シ並ニ刑法各本條ニ依ツテ處斷ス

第十四條 檢査員タルコトヲ詐稱シタル者ハ法院ニ送リ法ニ依ツテ處罰ス

第十五條 檢査人員ニシテ違反又ハ瀆職ノ行爲アリタルトキハ其ノ職ヲ罷免シ法院ニ送リ法ニ依リテ處罰ス

第十六條 第十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ五元以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 本規則ノ施行期日ハ別ニ部令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和五年三月五日印刷  
昭和五年三月十日發行

定價金貳圓五拾錢

南滿洲鐵道株式會社庶務部調查課

編輯兼發行人 佐田弘治 郎

印刷者 大連市近江町九十一番地 山田浩 通

印刷所 大連市近江町九十一番地 東亞印刷株式會社大連支店

發行所 南滿洲鐵道株式會社

取次販賣所 大連市紀伊町九十一番地 社 中日文化協會







終